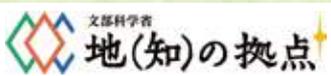


COC+

地方創生大学等連携プロジェクト支援事業(県委託事業)

採択事業実施報告書



大学等による「おおいた創生」推進協議会

目次

- 1 ごあいさつ
- 2 採択事業一覧（2018年度）
- 4 2018年度事業採択成果
- 32 2018年度成果報告会
- 33 2018年度成果報告会アンケート結果
- 34 事業アンケート結果
- 35 採択事業一覧（2016年度）
- 36 採択事業一覧（2017年度）

地域と若者が一体となって、 地方創生を推進していきます。

ごあいさつ

平成28年度から、「大学等による「おおいた創生」推進協議会」では、大分県からの委託事業として「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業」を実施しています。この事業は、大学等が持つ研究開発やシンクタンク機能、さらには学生の活力を活用するなど、「地（知）の拠点」である大分県内の大学等と大分県が連携し、地方創生に向けた地域に貢献できる人材の育成や若者の地元定着を推進することを目的としています。

この事業では、学生が地域に出向き、その地域の魅力や特徴を知ることによって地元定着や地域定着につなげる地域連携課題解決支援事業「学生による地域ブラッシュアッププログラム」と、若手社会人の知識教養を深め地域に貢献できる人材の育成を図るサテライトキャンパスおおいた支援事業「おおいたプロモーションプログラム」の2つの枠組みで取組を行いました。

平成30年度は、「学生による地域ブラッシュアッププログラム」では19プログラムを実施し、高等教育機関（10機関）より584人の学生が地域に出かけ、地域の課題解決について知恵を出し合いました。また、「おおいたプロモーションプログラム」では、社会人・学生など459人が大分の新たな魅力を発見したり、大分での暮らしをより豊かにする講座に参加しました。

本事業は、平成30年度で終了となりますが、学生が地域について理解を深め、地域への関心を高め地域活性化に資する人材として成長する、また社会人が知識・教養を深め大分を元気にする機運を高めることに繋がったかと思えます。

本事業の推進にあたり、ご協力・ご支援いただいた地域の皆様・関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。



大分大学COC+推進機構 機構長
越智 義道

COC+

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

学生が人々との交流を深めることにより、地域の生活文化・風景・特産品などの魅力に出会い、それを通じて地域の持つ様々な課題解決に取り組む事業です。

No.	申請大学等	事業名	申請者	連携地域	実施時期
1	大分県立看護科学大学	出前健康・体力チェック!	教授 稲垣 敦	県内各地	6月～12月
2	日本文理大学	中津市中心部における地域の魅力発掘と課題解決プロジェクト	教授 吉村 充功	中津市	6月～12月
3		地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト(観光ナビゲーションへの展開)	准教授 今西 衛	豊後大野市	7月～11月
4		地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト	教授 小島康史	大分市・由布市・別府市	9月～11月
5	別府大学	地域のお宝発掘応援隊	講師(専任) 塩屋 幸樹	杵築市	7月～12月
6		玖珠の大麦加工製品の周知拡大と地域資源を活用した新規商品の研究開発	教授 仙波 和代	玖珠町・別府市・大分市	6月～12月
7	大分県立芸術文化短期大学	ポケットパーク美術館-これまで作成した巨大モザイクアートを展示してのまちの回遊性づくり	准教授 竹内 裕二	大分市	9月～12月
8	大分工業高等専門学校	移住ゲームによる、おおい魅力向上プロジェクト	講師 久保山力也	大分・都市圏	7月～12月
9		大分県下の全市町村版5374(ゴミ無し)アプリ用オープンデータの整備	講師 小山 幸伸	臼杵市・大分市・別府市 等	6月～12月
10	別府溝部学園短期大学	発掘!大分伝統野菜 ~地域の伝統食品を知ろう そして 子どもたちに伝えよう~	教授 望月 美左子	杵築市・別府市・大分市	6月～12月
11	大分短期大学	「学生及び地域住民参加型ワークショップによる地域活性化への提案」	教授 吉野 賢一	大分市(旧:佐賀関町)	7月～12月
12	立命館アジア太平洋大学	佐賀関×APUみらい共創プロジェクト	課長 辻井 英吾	大分市(旧:佐賀関町)	7月～12月
13	大分大学	「きたく部」 ~放課後学習支援活動×放課後居場所づくり活動~	講師 清水 良彦	大分市植田地区	6月～12月
14		「紫を巡る文化と科学 ~紫根と貝紫~」	准教授 都甲 由紀子	竹田市・大分市	10月～11月
15		大分県内における観光・交流人口・地域公共交通の活性化をめざした産学官および高大連携による地域活性化支援プロジェクト	准教授 大井 尚司	大分県内全域	8月～12月
16		おおい応援Music(CD)を制作し、Promotion Video(PV)を配信する	准教授 矢野 英子	大分市	7月～12月
17		大分県における「中国料理」(飲食店)の実態に関する調査	教授 包 聯群	大分市・別府市・臼杵市・津久見市・宇佐市等	7月～12月
18		大分観光バーチャル体験プロジェクト2018	教授 古家 賢一	竹田市	6月～12月
19		地域連携による情報通信技術の農業分野への応用	准教授 大竹 哲史	臼杵市野津町	6月～12月

〈おおいたプロモーションプログラム2018〉

大学等が連携し、若手社会人等に対して、公開講座・講義など知識教養を深める場の提供を行うことにより、仕事へのモチベーションを高めたり地域への愛着を深めてもらう事業です。

No.	申請大学等	事業名	申請者	連携地域	実施時期
1	大分県立看護科学大学	地域医療を活性化する看護の魅力 —診療看護師(NP)の活躍— ①	教授 小野 美喜	臼杵市	10月
2		地域医療を活性化する看護の魅力 —診療看護師(NP)の活躍— ②	教授 小野 美喜	大分市	10月
3		地域医療を活性化する看護の魅力 —診療看護師(NP)の活躍— ③	教授 小野 美喜	日出町	10月
4	日本文理大学	最新の研究から見てきた地域の宝物『中津干潟』の現在と将来 ～地域資源としての干潟の保全・活用について考える～	教授 池畑 義人	中津市	8月～11月
5	別府大学	大分県内産ワインとチーズを楽しむタベ	准教授 藤原 秀彦	大分市	11月
6	大分県立芸術文化短期大学	「超」仕事力実践特講 第3講 アマゾンのカリスマバイヤーと語り合う、おおいたで働き、幸せを引き寄せ、成功する仕事力！	専任講師 安倍 尚紀	大分市	11月
7	大分工業高等専門学校	小中学校教員向け マイコンとセンサを使ったプログラミング基礎講座	技術専門職員 永田 玲央	大分市	9月
8	別府溝部学園短期大学	「大分を彩るスポット再発見」 五感を刺激する ～うわさのタイムトリップ～	食物栄養学科学科長 牧 昌生	豊後大野市・大分市	9月～10月
9	大分短期大学	おおいたの大地でつくる秋やさい	教授 摺崎 宏	大分市	9月～12月
10	立命館アジア太平洋大学	～底力と世界を魅了する価値を持つ日本が、勢いを取り戻すために～ 若いみなさんが世界をみる意味を語ろう	事業課 大嶋 名生	大分市	12月
11	大分大学	大分で採れる天然染料をめぐる文化と科学 ～学習教材・観光資源としての「おおいたの色」～	准教授 都甲 由紀子	大分市	9月～11月



事業A「学生による地域ブラッシュアップ」プログラム2018

出前健康・体力チェック!

大分県立看護科学大学

稲垣敦、濱中良志、赤星琴美、緒方文字、佐藤愛、秦さと子、石丸智子、田中佳子、森加苗愛、甲斐博美、吉川加奈子、安部真紀、桑野紀子、樋口幸、篠原彩、影山隆之、藤内美保、村嶋幸代



1. 目的

- 県内各地で、県民の健康・体力チェックを行い、参加した学生の**地域親和性・志向性**を高め、また、県民の**健康意識**を高揚させる。

2. 健康・体力チェック

- 血圧、血管年齢、骨評価、身体部位別体脂肪率・筋量(BIA)、内臓脂肪(BIA)、肩こり(筋硬度)、ストレス(唾液アマラーゼ)、自律神経バランス(HRV)、健康相談、等
- 握力、膝関節伸展力、長座体前屈、片足立ち時間、垂直跳び、ステッピング、全身反応時間、等

3. アンケート調査

調査項目

性別、年代、出身地、参加した目的、満足度、大分の理解、大分の親近感(追加)、大分への就職・定住指向(追加)

- 配付数 101件、回収数 43件 (回収率 42.6%)

表1. 出前健康・体力チェックを実施したイベントと学生数、参加者数

開催日	主催者名「イベント名」	会場	活動内容	学生ボランティア人数	出前健康・体力チェック参加者数
5/27 (日)	大分市「大分県物産展と上野エリアウォーキング大会」	KCOM 市民ホール	健康・体力チェック、ウォーキング参加	8	23
7/21 (土)	大分市社会福祉協議会「世代間交流活動づくり事業」	大分市市民交流プラザ	健康・体力チェック、健康相談、スカットボール、ほか	5	105
7/25 (水)	大分フットボールクラブ「大分トリニータ vs 愛媛FC」	大分大観球場	健康・体力チェック	14	583
9/22 (土)	富士見が丘自治会連合会・長寿会「健康まつり」	富士見が丘公民館	健康・体力チェック、スカットボール、ほか	9	45
10/21 (日)	富士見が丘自治会連合会「体育祭」	健康小学校	健康・体力チェック、健康相談、運動	17	290
11/7 (土、祝日)	大分県教育委員会「ゆふいぬみスポーツ大会」	湯梨原スポーツセンター	健康・体力チェック	8	283
11/4 (日)	健康福祉会「おなかの健康まつり」	みどりの玉置	健康・体力チェック、腕時計測定、血圧、ほか	25	992
11/10 (土)	大分市社会福祉協議会「世代間交流活動づくり事業」	大分市市民交流プラザ	健康・体力チェック、スカットボール、ほか	6	100
11/23 (金、祝日)	大分県教育委員会「前夜祭」	津入見市前運動公園	健康・体力チェック	9	224
1/20 (日)	大分県教育委員会「Run+Fitness」	トキハ駅前店	健康・体力チェック	-	-
2月 (予定)	大分県教育委員会「イベント」	佐田市内	健康・体力チェック	-	-
3/9 (土)	大分市社会福祉協議会「世代間交流活動づくり事業」	大分市市民交流プラザ	健康・体力チェック	-	-
3/17 (日)	大分市「健康まつり」	大分市の中はる少年自然の家	健康・体力チェック	-	-
3/20 (土)	富士見が丘自治会連合会「最終健康ウォーキング」	ふじみ公園	健康・体力チェック、ウォーキング参加	-	-
			合計	101	2645

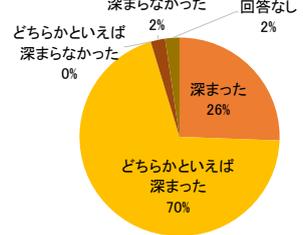
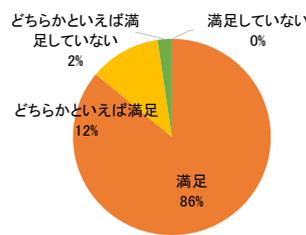


図5. 参加した学生の満足度

図6. 大分の理解

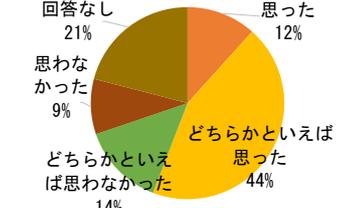
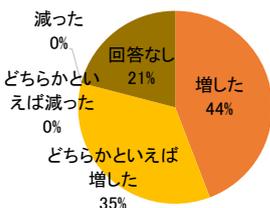


図7. 大分に対する親近感

図8. 大分に就職・定住したい

- 参加した学生は101名、健康・体力チェックの参加者は**2,645名**であった。
- 学生が満足した理由: ①**楽しかったから(24件)**、②**地域の人たちとたくさん触れ合えたから(13件)**、③**多くの人と話すことができたから(5件)**、④**お年寄りや子供たちも楽しそうにしてくれたから**、⑤**健康チェックで若いという結果が出た時にたくさんの方の笑顔が見られたから**、他。
- 健康・体力チェックに興味があつて参加した学生は、ほかの学生よりも、大分に対する**親近感**が増した学生が有意に多かった(p=0.016)。
- 学生の**出身地**と参加した**イベントの種類**は、「満足度」、「大分の理解」、「大分に対する親近感」、「大分に就職・定住したい」に影響していなかった(p>0.05)。

4. 結果



図1. 参加した学生数

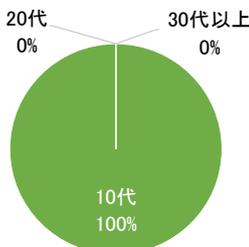


図2. 参加した学生の年代

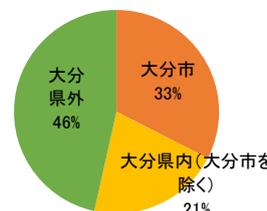


図3. 学生の出身地

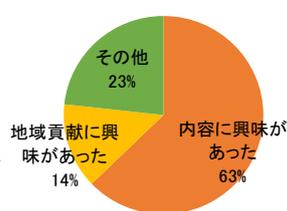


図4. 参加した学生の目的

5. まとめ

- 学生は**地域の人々との温かく楽しい触れ合い**を通して地域住民、ひいては大分を**理解**し、**親近感**を感じたと考えられる。これによって大分に**就職したい**、**住みたい**と思うようになったと推測される。
- 満足度**が高まった要因として、健康・体力チェックを上手くできたことや人々が**喜び**、あるいは**褒められたり**、**感謝されたこと**で、人の役に立ったという**達成感**が得られたこと、そしてこれによって**自己効力感**が増したことも一因と考えられる。
- 出前健康・体力チェックは、学生の**地域親和性**や**地域指向性**を高める効果があると考えられる。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

中津市中心部における地域の魅力発掘と課題解決プロジェクト / 日本文理大学 / 教授 吉村 充功

中津市中心部における地域の魅力発掘と課題解決プロジェクト

日本文理大学
代表教員：吉村 充功

1. 概要

本プロジェクトでは過去2年間において、「まち・ひと・しごと」の観点から地域のリーダーとして活躍できる若手社会人『おおい地域創生リーダー』を育成するきっかけ作りとして、県内各市（大分市、中津市、佐伯市、日田市、豊後大野市）中心部において、大学生・高校生と若手社会人の混成グループを対象とした講座を展開してきた（おおい地域創生リーダー養成講座）。

本年度は、城下町として優れた歴史的まちなみ・景観と文化を持つ一方で、「空き家問題」「観光客の滞在時間の短さ」「観光客や子育て世代の商店街への誘導策の欠如」などの課題がある中津市中心部（諸町・寺町・中津駅・中津城周辺）をフィールドとして、課題意識のある地域住民などの現地ステークホルダーを巻き込み、一緒になって具体的な地域課題の解決に向けた取り組みが促進できるように展開した。

プロジェクトでは、まず学生が研修最終回に行う地域課題解決型の地域住民との交流ワークショップの企画運営が出来るように、通年のプロジェクト活動を通じて、地域の魅力発掘と課題解決をできる地域創生人としての能力育成を行った。これらの活動を通じて、最終のワークショップに向けて必要な情報収集・整理も行い、「観光まちづくり」をキーに住民らが正しい情報により議論ができる下地を作り上げた。

最終のワークショップでは、広く社会人、地域住民が参加し、学生がファシリテートしながら、上記で挙げた地域課題に対して具体的な課題解決策を練り、今後の課題解決策の実践的展開につながる結果をもたらした。

以上を通じて、若者の地域創生リーダーとしての能力を育成するとともに、当該地域の課題解決に向けた地域住民のムーブメントを作り出すことを目的とした。

2. 参加者数

【プロジェクト参加学生】

- 建築学科2年：20名
- 経営経済学科2年：2名
- 建築学科3年：3名
- 航空宇宙工学科3年：1名
- 経営経済学科3年：2名
- ◎合計：28名

【ワークショップ参加学外者（最終日のみ）】 ○社会人：19名

3. 実施日程

○第1回合宿（2018年6月9日～10日）：

- ・会場：新博多町交流センター（初日）、南部まちなみ交流館（2日目）
- ・内容：7チームに分かれ、学生たちでフィールドワーク（FW）し、中津城下町、中津中心部ならではの魅力をまとめる（初日）
初日を踏まえ、解決すべき課題をFWを通じてまとめる（2日目）

○第2回合宿（2018年11月3日～4日）

- ・会場：新博多町交流センター（初日）、南部公民館（2日目）
- ・内容：3チームに再編し、課題を掘り下げるFWを実施。
最終ワークショップ（WS）のための素材・情報収集として、城下町や中心部でヒアリング調査（住民・観光客等）。一部、比較対象として、三光コスモス祭でもヒアリング（2日目）

○第3回合宿（2018年12月8日～9日）

- ・会場：新博多町交流センター
- ・内容：これまでの結果を踏まえ、学生の考えるテーマについて、解決策を学生と住民と一緒に考える公開WSを開催（2日目）

4. 取り組みの様子

①魅力発見FW（中津城）



②魅力発見FW（商店街）



③グループワーク



④観光協会でのヒアリング



⑤観光客ヒアリング



⑥個店でのヒアリング



⑦三光コスモス祭り（域外調査）



⑧公開WS冒頭での調査報告



⑨住民らとの公開WS



⑩公開WSのまとめ発表

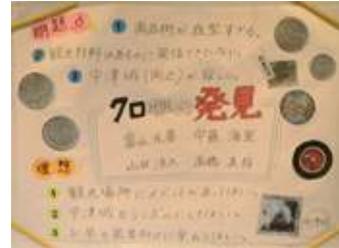


5. 主な取り組み成果

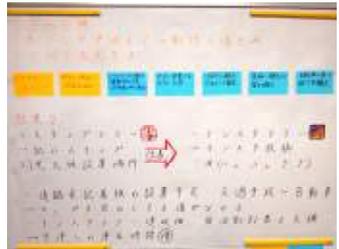
★学生たちが見つけた魅力（第1回合宿初日）



★学生たちが考えた解決すべき課題とその解決方向性（第1回合宿2日目）



★インタビュー結果（公開WS冒頭報告） ★公開ワークショップのまとめ成果



6. まとめ

学生たちのフィールド調査結果を踏まえ、公開ワークショップでは、「中津中心部の観光回遊性を高める方法」「使いやすい観光マップの検討」「空き家活用」などをテーマに住民らと有意義な議論ができ、具体的な課題解決策の提案を行うことができた。今後は実現に向けた検討を行う。

本プロジェクトの推進にあたっては、中津市 企画観光部 総合政策課 総合政策係及びまちづくり推進室をはじめとする関係者の方々に多大なご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。



【事業 A】 地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト (観光ナビゲーションへの展開)

日本文理大学経営経済学部

今西 衛・本村 裕之・舛田 佳弘・山城 興介

1. 事業目的

本プロジェクトは2016年度より、ジオパークをはじめとする地域資源をどのようにプロモートすれば観光客が呼び込めるかを学生間で議論し、学生の視点に立って、地域資源の魅力を発見し、地域資源に付加価値をつけるような情報提供を行い、観光客が訪れ、地域経済が潤う仕組みの確立を目指してきた。このプロジェクトによって、学生自身が、「大分」の価値や魅力を再発見し、地域愛を育ててもらおうと同時に、過疎地域の課題を発見から解決に至る能力を身につけ、同時に、地域経済に利益をもたらすことを目的とする。

2017年度は、豊肥本線をテーマとしたパンフレットを作成し、好評のうちになくなっていく状況であった。しかし、パンフレットには地図による案内は一切掲載していない。あくまで、学生の感性によって作られたパンフレットに見せられて、豊後大野に興味を持ってもらう、あるいは、豊後大野市民に地域の魅力を認識してもらうことであった。

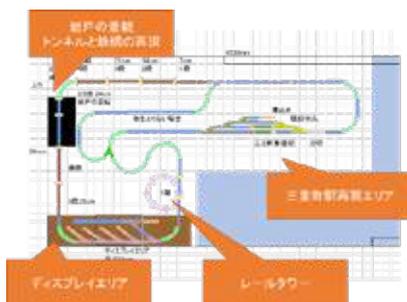
今年度は、google map をベースとして、行き先をナビするマップを作成することを目的とする。

また、地域より国民文化祭において、三重町市場で、催しをするとのことであり、商店街の空き店舗について、JR豊肥本線を活性化する活動をして欲しいとの要請があった。学生と話し合った結果、近くに、子どもが集う絵本館があることから空き店舗に、JR九州の鉄道模型などを展示し、子どもが楽しく遊べる空間を作ることとした。

2. 事業内容

2.1 豊後大野レール館

豊肥本線を活性化して、豊後大野市を明るくするために、「豊後大野レール館」を開館した。絵本パレットと連携し、空き店舗を活用して三重町駅周辺を再現し、豊後大野市・豊肥本線の良さをPRすることを目的としている。また、地域の方々や子ども達に見てもらふことにより、豊肥本線がいかに大事な役割を担っているかという事を再認識してもらうことを目的としている。



豊後大野レール館レイアウト図

具体的には、三重町市場の空き店舗を活用し、三重町駅周辺を再現し鉄道模型を展示する。「豊後大野レール館」として開館し、地域の方々や子ども達に楽しんでもらう。このイベントが、豊肥本線の活性化に繋がるのかを

検証するためのアンケートを実施する。苦労した点としては、三重町駅を取り入れつつ派手なレイアウトづくりは時間と手間がかかりとても苦労した。

実際にやってみると、お祭りやブルーマーケットが開催されている日は賑わったが、その他の日の来館者は少なかった。情報発信が上手くできていないと感じたので、今後は上手な発信方法を考えたい。また、子どもたちから予想以上の反応が得られてよかったと感じた。



活動風景

2.2 ノンタンマップの作成

国民文化祭応援事業三重町市場ストーリー「絵本パレット」において、ノンタンARが実施された。学生も実際に体験したが、紙の地図では道に迷ってしまった。そこでGoogle map にスポットを登録し、そこまで案内するナビをつくってみた。



ノンタンマップ (行って戻るだけで面白くない)



Google map (ナビもできる)

行って戻るだけでは、面白くないので、エイトピア方面への回遊を促してみた。小さなスポットも設定しているので、ナビで案内することができる。

3. まとめ

豊後大野レール館は6日間の期間中約200名の来館者があり一定の効果があり、観光客誘致の示唆が得られた。引き続き郷土愛を育み、地元就職志向が高まることを期待したい。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト / 日本文理大学 / 教授 小島 康史

『地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト』

日本文理大学 工学部 情報メディア学科 小島 康史・星芝 貴行 研究室

株式会社 地域経済情報センター（求人ナビおいた）

●**概要**：現在、少子高齢化を乗り越え、東京一極集中を是正する地方創生政策において、大学進学時及び就職時の若者の県外流出を食い止める必要がある。そのためには、地域の中小企業の雇用問題である「**地域企業の魅力発信、雇用のミスマッチ、地元企業への地元大学からの就職率向上、若者定着率向上**」の解決が重要となってくる。本プロジェクトでは、学生達が「**学生目線**」で地域中小企業の「**リクルートビデオ**」を制作し、各企業の魅力を伝えることを目的としている。



本プロジェクトの取り組み体制

●**事業内容**：前期2社、後期2社の計4社を対象に「リクルートビデオ」の制作を行う。1～4年生の混同でチーム構成を行い、制作ノウハウが後輩へ引き継がれるよう配慮する。昨年度制作した「リクルートビデオ」は右記の4社で、各社の公式Webに掲載されている場合、その再生回数と、企業説明会等での利用回数等の調査から行った。再生回数・使用回数とも多く、昨年度の取り組みで好評であった「学生目線」を更に進め、演出手法に工夫を凝らした制作を行う。

企業名	制作ビデオ	公式Web サイト掲載	動画サイト 再生回数	説明会等 使用回数
株式会社 臼杵鋼板工業所		○	224	4
株式会社 熊野建設		—	—	13~15
株式会社 双葉タクシー		○	200	50以上
株式会社 トキハイダストリー		○ ※期間限定	25	30以上

※2019年1月8日現在

●**スタッフ・チーム構成**：1～4年生の混同チームを構成し制作を行う。名前に★の付いた学生が昨年度の経験者で、今年度に新規に参加した学生の制作サポートを行う体制となっている。企業毎に演出・撮影・音声・音楽・編集等の役割を決め、企業取材・ロケハン～撮影・編集、納品までを行う。

4年	★前田 裕城、★境 陸人、★中矢 秀平、★津行 亮介、★前田 涼
3年	★池田 周平、★春木 孝太郎、★新名 宏哉、木許 涼太郎、鴻上 倫彬、佐々木 遼、伊藤 修弘、在間 勇斗、稲田 祐太、堀江 柊馬、姜 河琳
2年	★河野 靖子、★黒木 唯衣歌、★能丸 祐一、★高木 結萌、★江川 舞、熊本 春樹、河野 慎治、石井 智寛
1年	森本 吾子美、仙波 大輝、温水 啓介

●**事業成果**：完成した各社の「リクルートビデオ」と、その制作における「学生目線」の演出を以下に示す。

仲道トーヨー 株式会社	社会福祉法人 庄内厚生館	三光建設工業 株式会社	株式会社 大谷商會
<ul style="list-style-type: none"> ●資格取得とそれに伴う手当の詳細な情報公開 ●手当の情報公開が応相談ではないことを強調 ●取得を推奨する資格と応じた手当を一覧化 	<ul style="list-style-type: none"> ●会社の教育指導体制についての情報強化 ●その会社独自の指導体制を紹介 ●一年間のチューター制度での人材教育を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の会社案内リーフレットとの相乗効果 ●リアリティな映像により説得力が増す ●各スペシャリストやアットホームを描く 	<ul style="list-style-type: none"> ●登場人物は偉い方より身近な先輩社員を登用 ●入社後の自分が投影できる若い社員像を描く ●2年目、3年目社員のステップアップを提示

このリクルートビデオ制作プロジェクトにより、各企業は「**若者が求める企業情報**」を得ることができ、新たな企業風土を模索・構築が可能になるのではないかと考えられる。今後、各企業の入社理由等に本プロジェクトがどのように影響したか、「**地域の中小企業の雇用問題**」がどの程度解決できたかを、調査を継続する予定である。



地域のお宝発掘応援隊

別府大学 食物栄養科学部 発酵食品学科 塩屋幸樹

目的

大分県内には多種多様な伝統行事、郷土料理や温泉などの地域資源が存在し、地域の人のみならず多くの観光客が各地を訪れ賑わっている。しかし、中山間地域では少子・高齢化により過疎化が進み、地元の祭りや盆踊りなどの伝統行事や、昔から伝承された郷土料理が衰退あるいは途絶えてしまうという現状がある。一度途絶えた伝統文化を復活させることは難しいため、その継承と再興は急務である。

本プロジェクトの活動地域である杵築市大田小野地区も典型的な中山間地域である。そのため、後継者不足は深刻で、起爆剤となるアイデアを必要としている。そこで、別府大学と杵築市大田小野地区が協力し、別府大学の学生が地域の人々との交流し、問題の発掘、問題解決することで地域資源の継承・活性化を図ることを目的とした。

活動体制

すずめの楽校 (地元住民とのコーディネート役)
白鬚田原神社 (どぶろく祭り)
比枝神社 (例祭)
発酵食品学科学生 延べ63名

活動日と活動概要

7月8日：地域の問題点の調査 (すずめの楽校)
9月24、25日：どぶろく仕込み (白鬚田原神社)
10月17、18日：どぶろく祭り (白鬚田原神社)
11月22、23日：比枝神社例祭 (比枝神社)
12月22日：地域の方への報告会

<地域の歴史、行事、料理などの調査>

すずめの楽校にて地域の方による杵築市大田地区の歴史、史跡、伝統行事、伝統料理についての講義が行われた。白鬚田原神社でのどぶろく祭など数多くの伝統行事があるが、高齢化に伴う後継者不足が問題となっていることがわかった。今後はお祭りなどに参加し、地域の活性化を図ることにした。また、教えて頂いた郷土料理のレシピをもとに各学生が郷土料理の調理も試みた。



安藤氏による講義



レシピ
1 ボールに薄力粉を入れる。
2 水を少しずつ加え、ませる。
3 小麦粉がまとまり、耳たぶ程度の硬さになったら、ちぎり卵円形にし3分のほどゆがせる。
4 たっぷりのお湯を清潔させた鍋に3を細長く伸ばしながら入れ、ゆでる。
5 ゆであがったものをざるにとり冷ます。
6 黄粉・砂糖を混ぜ合わせたものをのりまぶす。

郷土料理の作成

<どぶろく祭り>

白鬚田原神社では、710 (和銅3) 年の神社創建以来、約1300年にわたりどぶろくの製造が行われており、毎年秋の大祭ではその年の新米を使用したどぶろくを作り、参拝者に振る舞っている。今回私たちは、どぶろくの仕込みと、どぶろく祭りでのどぶろくの振る舞いおよび神輿を担ぐことで、お祭りを盛り上げることにした。

<醸造始の儀式>

9月24日は雨の降る中、神社近くの峰川で地元産の米約360キログラムを研ぐ作業を行った。翌25日は、早朝6時より神社境内にて、米を蒸す、冷ます、醸造用タンクに入れて混ぜる作業を行った。この一連の操作を6回ほど繰り返した。これで約6000リットルのどぶろくができる。



米研ぎ



米冷ます



籠入れ

<どぶろく祭り>

どぶろく祭りでは、9月に仕込んだどぶろくを参拝者に振る舞った。また、地元の青年商工会の方々と協力し、餅つぎの手伝いや餅の販売を行った。また、25日には学生2名が神輿担ぎの担い手として参加した。約2時間神輿を担ぎ、町内を練り歩いた。これらの活動の様子は、朝日新聞 (9月25日)、大分合同新聞 (9月28日) や、OBS (9月24日)、TOS (9月25日)、10月17日生放送)、OAB (9月25日)、ケーブルテレビでも取り上げられた。



どぶろくの振る舞い



テレビ集材の様子



青年商工会との餅つき



神輿の担ぎ手



地元の方との集合写真



神輿の担ぎ手との集合写真

<比枝神社例祭>

むぎ酒は杵築市を中心に古くから飲まれている郷土料理である。そこで、地元の方にむぎ酒の商品化の依頼を受け、学生がむぎ酒の配合や発酵条件の検討を行った。試行錯誤の末、むぎと麹の最適な割合を見つけ、その配合で発酵させたむぎ酒はお祭りで参拝者に振る舞われた。

また、お祭りに向けて、氏子の方と餅つきを行ったり、会場設営などを行った。



むぎ酒の振る舞い



餅つき



神輿

まとめ

少子高齢化が進む中山間地域に伝わる伝統行事や郷土料理について学習し、スライドなどにまとめることで伝承に貢献することができた。また、多くの学生が伝統行事に参加し、地域の方々と交流することで、地域の活性化にも貢献できた。また、学生自身も多くの人と触れ合うことで人間力も向上した。今後もこれらの行事に継続的に参加し、地域の方々と交流することで、地域の活性化に繋げていきたいと思っている。また、今回は商品化にはいたらなかったが、むぎ酒の商品化も検討していきたい。

平成30年度 COC+事業 別府大学

玖珠の大麦加工製品の周知拡大と 地域資源を活用した新規商品の研究開発

H.30年度、玖珠町ブランディング事業に関して、別府大学は、以下の事を実施致した。

1. 玖珠美山高校との高大連携の確立と、高大連携を通じた新規商品の開発。
2. 前年度に試作まで行った大麦カレーの完成品の作成とパッケージ作製
3. 販路開拓を目指したマーケティング、韓国の市場調査。

カレーとパッケージ作製

昨年度、玖珠の大麦を使用したレトルトカレー開発を行った。今年度はその完成品を作成させるとともに、パッケージの作製を別府大学の漫画・デザインアニメーションコースが行った。玖珠について各人で調査を行い、以下のイラストが候補としてあがった。

新規商品開発

～美山高校と高大連携～

玖珠町産大麦による玖珠町の活性化を目的とし、玖珠美山高校と高大連携事業を行い、下記の取り組みを実施した。

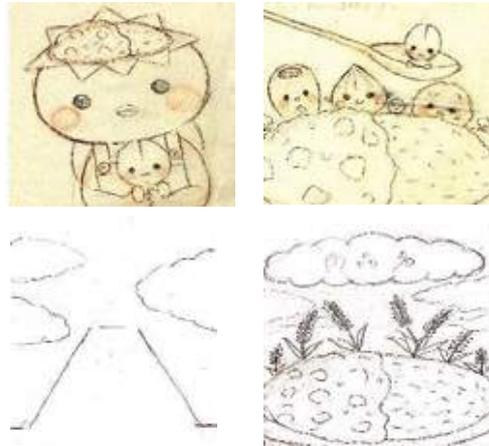
- (1) 「美山マルシェ」に向けたレシピの共同開発
- (2) 「美山マルシェ」での「くすむぎチーズケーキ」の販売



2018年11月3日開催の「美山マルシェ」に向けて玖珠町産大麦と玖珠美山高校のブルーベリージャムを使用したチーズケーキの共同開発を行った。商品名も生徒・学生が意見を出し合い決定した。



玖珠美山高等学校で開催された収穫感謝祭「美山マルシェ」において、共同開発した「くすむぎチーズケーキ」を販売した。「くすむぎチーズケーキ」は100個の限定販売で、わずか10分で完売した。



海外販路開拓

商品を作っても、国内外で売れなければ利益とならず、地方創生につなげていくのは難しい。そこで、海外販路開拓を行えるよう、国際系学部で、韓国におけるレトルトカレーの市場調査を行うとともに、販路開拓の可能性の検討を行った。



ジェトロ・ソウル事務所

韓国では日本と同じようにカレーの市場はあるものの、数は圧倒的に少ない。日本と比較するとカレー文化は発展途上にあると言える。レトルトカレーに関しても、品数が少ないことから、今後の販路対象として良いと考えられた。



ハウス食品HPより

参加学生:

渡辺海羽、工藤睦、新川滉也、安東華菜絵、稲村朋果、大島智子、鷺海遥捺、越智紗耶香、河野侖音、黒木伶汀、宮本理央

参加教員:

大賀恭(大分大学)、高松伸枝、浅田憲彦、梅木美樹、陶山明子、中道眞、金孝源、仙波和代

住宅街におけるまち中賑わいづくり社会実験

— まちなか巨大モザイクアート展 — (報告)

大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科

○プロジェクト体制：竹内裕二・安倍尚紀・後藤まりあ

○連携団体：大分県、大分市

○対象者及び参加学生：作品を見に来た人延べ約10万人、準備を行った学生・19人+お手伝い学生約100人

□ 本プロジェクトの目的

大分市の住宅街の賑わいづくりの目的は、市民が**まち中に**

来街し、回遊してもらうことである。

これまでの活性化活動は、市民目線でなく、商業者目線による取組みが多かった。そこで、本プロジェクトの目的は、本企画関係者（産官学民協働体）一同から地域住民の方々へ**巨大絵画をクリスマスプレゼントとして届けること**である。

□ 事業計画

○企画名：ポケットパーク美術館—これまで作成した巨大モザイクアートを展示してのまちの回遊性づくり

○展示場所：①大分市大道一丁目 私有地、②大分市大道二丁目 ポケットパーク7花の辻、

③大分市大手町三丁目 大手町公園の3か所（展示場所図参照）

○展示期間：70日間/10月15日～12月25日【設営・撤収は、開催期間前後1日づつ】

○作品内容：①は、ルノアールの「ピアノを弾く少女たち」

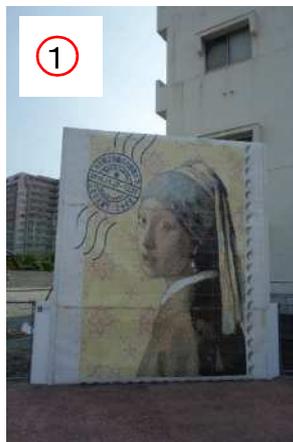
②は、フェアメールの「真珠の耳飾の少女」

③は、ルノアールの「舟遊びをする人々の昼食」。

□ 期待する事業成果

今回の取組みにより、住宅街での賑わいづくりの方法を提供することができた。さらには、市民に対して、まち中に来街する目的を創出することができた。また、通りがかりの人々にとっても、強い印象を与えた（多くの人が期間中、作品前で写真を撮っていた）。その上で今回の支援の達成度について、次のような結論を得ることができた。

【支援事業が示すステップ1】本企画に対する新組織を結成し、学生による内部交流を図った上で学生組織による地域への参加の働き掛けを行うことができた。【支援事業が示すステップ2】本取組みが、地域にとっての価値を見出してもらうように働き掛けを行い、本取組みへの参加を促すことができた。【支援事業が示すステップ3-4】本取組み課題となる住宅地へ住民が回遊するための目的を創出することができた。結論として本展示は、本実験の目的を満たすことが出来ることを導き出した。そこで、本手法により今後発展させていきたい。



移住ゲームによる、おおいたの魅力向上プロジェクト

久保山力也・佐藤崇正
大分工業高等専門学校

【 概 要 】

「大分市移住者居住支援事業補助金」など移住に積極的に取り組む大分地方では、各種移住関連ランキングで豊後高田市や臼杵市などが上位に選ばれるなど、その自然環境や歴史的な趣きは評価されて久しい。たしかに移住者にとってこうした目につきやすいポイントは重要である。他方、やはり「住んでみないとわからない」ことは多い。とくに地域住民とのかかわりはストレスを招く大きな要因であろうと考えられる。今後ますます移住地として大分地方が選択されるためには表面上クリアに見えない部分も一層ケアしていく必要があるが、このため当然受け入れ側にもその対応が求められる。本プロジェクトでは、移住希望者ともども移住先地域住民の不安や潜在的な紛争要因も加味しつつ、これら双方が「遊び」ながら移住について学ぶことができるゲームを開発する。

1 移住ゲームの目標

- ▶ 移住希望者が直面する課題について気づく。
- ▶ 移住先住民が抱く不安について気づく。
- ▶ 移住という行為そのものに内在する本源的な問題に気づく。

2 ゲーミングの狙い

ゲームをしていただくことで楽しみながら、移住（+課題やその克服）に対する理解を深めてもらう

◎ 実装化に向けての手順

臼杵市役所におけるヒアリング + 法専門家のサポート + **ゲーミング**

3 移住問題

- ◎ 臼杵市役所におけるヒアリングから
 - ▶ ゴミ出しなど、地域のルールになじめない（移住者）
 - ▶ 入区費がかなり高い（移住者）
 - ▶ 思い通りの仕事がなかなか得られない（移住者）
 - ▶ 人間関係が近すぎる（移住者）
 - ▶ そもそもあまり新しい人を受け入れたくない（移住先）

4 プラットフォーム

- ▶ RPGツールMV
- ▶ スマートフォン向け
- ▶ 役割体験が可能
- ▶ 世界観を描きやすい
- ▶ 比較的時間をかけて遊べる



6 移住ゲーム

- ▶ 首都東京ー。移住禁止法が出されて以来、社会は大混乱していた。主人公はある日突然啓示を受け、移住禁止法に隠された謎を解明するため、都内をめぐる旅に出る。果てして、謎を解き明かして、移住することができるのであろうか。
- ▶ 東京マップ（東京主要部と横浜、周辺地域が舞台）
 - ◎ 新宿、池袋、渋谷、東京駅、上野、横浜などをめぐり、移住問題の謎に迫っていく。各地で重要アイテム「移住者の涙」（8つ）と「移住魂」（3つ）を獲得し、東京を脱出することが東京マップでの目標となる。移住の準備を整えた主人公の行く手を阻む最大の敵とは…？



▲ 東京マップ ▲ 情報収集@四谷 ▲ 戦闘シーン

- ▶ 大分マップ（大分市と臼杵市が舞台）
 - ◎ 大きく成長し東京を離れた主人公は、いよいよ大分の地へと足を踏み入れる。しかし、そこにはまたしても多くの強敵が待ち受ける。彼らを倒し移住を達成することができるか、いよいよクライマックス！

5 着想の経緯と実績

- ▶ 法的課題にかんするさまざまな教材の開発（法×「遊び」）



解釈のちから 裁判員裁判ゲーム 紛争解決ゲーム 裁判員裁判ゲーム 「紛争に強くなる」ゲーム

7 プレイ感想

- ▷ 物語の世界観と展開が独創的だった（3年男子）
- ▷ 移住は大変だなと思った（1年男子）
- ▷ ゲームだったので勉強ばくなくていい（3年女子）

8 課題と展開

- 前提：プレイヤーのゲーム慣れ/テーマに馴染みがない
- I いかにか、ゲームとしての世界観を構築するか。
 - II いかにか、ゲームバランスなど完成度をあげられるか。
- ▶ シリーズ化？ 簡易バージョン？ ボード/カードゲーム？

9 結論

移住は地方において重要な意義を有している。ゲーミングを用いての本研究課題のようなアプローチは稀有であり、関心を大幅に喚起できるものと考えられる。また、作成にあたった学生への教育的意義も非常に大きいものとなった。大分の魅力も十分織り込むことができた。特にこれから社会を支える若い世代に向け、効果的であろうと考える。

久保山力也（くぼやまりきや）
r-kuboyama@oita-ct.ac.jp
大分工業高等専門学校 講師 専門 法社会学・法教育
韓国・釜山大学校 ▶ 福岡大学 ▶ 福岡大学 ▶ 福岡大学 ▶ 福岡大学 ▶ 早稲田大学法科大学院（ロースクール） ▶ 九州大学大学院法学研究科 ▶ 青山学院法科大学院（ロースクール） ▶ 名古屋大学大学院法学研究科・タシント法科大学（ウズベキスタン）での勤務を経て現職



ご支援、ありがとうございました

大分県下の全市町村版5374アプリ用オープンデータの整備

小山 幸伸、油野 将大
大分工業高等専門学校情報工学科

研究背景と目的

2013年に行われたG8サミットにおいて、オープンデータ憲章が合意された。この国際的な合意に基づいて、オープンデータの利活用が政府および各自治体において進められている。

同じく2013年、市民団体Code for Kanazawaが金沢市のゴミ収集情報をオープンデータ化し、それを閲覧するアプリを提供する5374(ゴミナシ).jpを開始した[1]。これはデータを差し替えることによって現地化できるため、全国114自治体に広がったが、大分県下では未だ別府市のデータのみである。

これに着目した本取り組みは、

1. 大分県下各地出身の学生らが協力し、平成30年度の大分県下の全市町村版5374アプリ用オープンデータを整備する。
2. 潜在的な5374アプリの利用者である、彼ら/彼女らの保護者らにそれを紹介する。
3. 本報告会を通じて、行政に5374アプリ形式にごみ収集情報提供の有用性を紹介する。

そして本取り組みを通じて、将来大分県下のオープンデータの利活用を進め、地域活性化をけん引する人材となる芽を育む。

ごみ収集情報のオープンデータ化

いずれの市町村とも図1のようなゴミ収集情報をPDF形式で公開している。図2の5つ星スキームによると、人間可読なPDF形式は1つ星評価である。図3のような5374アプリが処理するための、機械可読なCSV形式のデータを作成した。



図1. カレンダー形式のゴミ収集情報



図2. オープンデータのための5つ星スキーム[2]

```
プラスチック、お菓子の袋、お  
プラスチック、お弁当の容器、お  
燃やせるごみ、紙おむつ、紙おむつの汚物は水に流してから、か  
燃やせるごみ、乾洗剤、か  
燃やせないごみ、カセットラジオ、か  
燃やせないごみ、傘、か  
プラスチック、カップラーメンの容器、か
```

図3. 5374アプリ用CSV形式データを例示する。左から、分別の種類、ゴミの名前、注意事項、そしてゴミの名前の頭文字である。



5374の趣旨説明の様子
In 日出町公民館(2018.09.21)



データ作業前のプレストの様子
In 日出町公民館(2018.09.21)



プレストの結果
In 日出町公民館(2018.09.21)



データ作成作業の様子
In 日出町公民館(2018.09.21)



5374の趣旨説明の様子
In ホルトホール会議室(2018.11.03)



データ作成作業の様子
In ホルトホール会議室(2018.11.03)

5374用オープンデータの公開

GitHub上に公開した、両データを5374に適用したものが図4および図5である。なお、図6のQRコードをスマートフォンで読み取ることによって白杵市版5374のページを閲覧出来る。

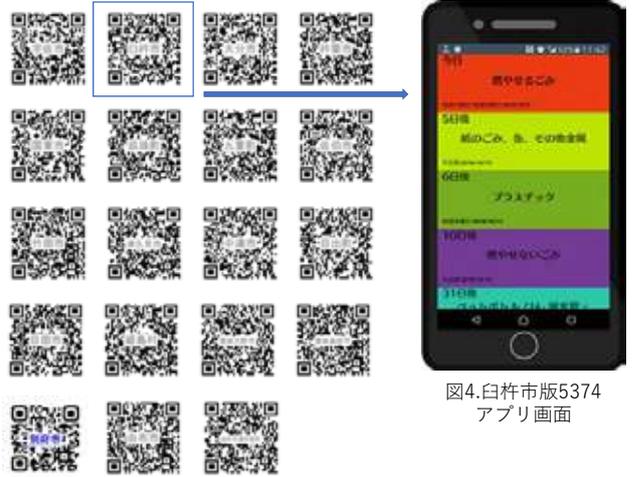


図4. 白杵市版5374アプリ画面

ごみ集積場のオープンデータ化

5374.jpは、スマホの現在地情報を参照した上でごみ収集情報を提供する予定とされている。これに先駆けて、姫島村を事例として、ごみ集積所の位置情報のオープンデータ化を試みた。



作業分担の確認中
In 姫島村公民館(2018.09.26)



ごみ集積所の調査中
In 姫島村(2018.09.26)

ごみ集積所



OpenStreetMapによる
ごみ集積所のオープンデータ化
In 姫島村(2018.09.26)



姫島港周辺のごみ集積所情報
In 姫島村(2018.09.26)

まとめ

大分県下全市町村の平成30年の5374データを学生手動で整備した。16～22歳までの10名(大分市、別府市、日出町、白杵市、佐伯市出身者)によって、そのデータは作成された。上記に加えて、オープンデータの作成方法を体験した人数は40名にも及び。学生らは家庭において、保護者らにそれを紹介した。加えて、姫島村を事例として、ごみ集積所の位置情報をOpen Street Map上にオープンデータ化した。

参考文献

- [1] 5374.jp, <http://5374.jp/>
- [2] 5-star open data, <https://5stardata.info/ja/>

謝辞

本取り組みは、「学生による地域ブラッシュアップ」プログラム2018(大分県正式名称：地域連携課題解決支援事業)の助成を受けて実施された。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

学生および地域住民参加型ワークショップによる地域活性化への提案 / 大分短期大学 / 教授 吉野 賢一

地方創生大学等連携プロジェクト支援事業(A)

事業名 『学生および地域住民参加型ワークショップによる地域活性化への提案』

採択校: 大分短期大学

吉野 賢一^{*1} 宮原 佳代^{*1} 鍵和田又一^{*1} 渡辺 修^{*2} 松尾 島雄^{*2}
 (*1 大分短期大学 園芸科 *2 NPO・さかのせきまちづくり協議会)

背景

平成 29 年 5 月 13 日、「NPO 法人・さかのせきまちづくり協議会と学校法人平松学園大分短期大学との連携・協働に関する協定」書の締結。協定の主旨は、NPO 法人・さかのせきまちづくり協議会（以下、NPO・さかのせき）と学校法人平松学園大分短期大学（以下、大分短期大学）は、連携・協働し、地域資源（ヤブツバキ）の、活用に関する研究開発を行い、佐賀県地域の振興、人材育成及び学術研究の発展に寄与するための協定を締結する。



図1 協定の締結時

I 佐賀県地域の地域資源（ヤブツバキ）を活かした取り組み

とき：平成 30 年 7 月 26 日（木） 場所：佐賀県・関崎半島県道 635 号線沿い市有地 参加学生 51 名（1・2 年）、NPO・さかのせき、地元自治委員会

活動内容 (1) 植樹場所の草刈り（環境整備）(2) ヤブツバキ 20 本の植樹 (3) 演歌「豊後水道」（作詞：阿久悠、作曲：三木たかし、歌手：川中美幸）発表記念碑の建立
 評価

- (1) 県道 635 号線・市有地のトイレ及び駐車場周辺的环境整備ができた。
- (2) 学生達は草刈り及び地域資源（ヤブツバキ）の植樹体験ができた。
- (3) 演歌「豊後水道」（歌手、川中美幸：作詞：阿久悠・作曲：三木たかし）発表記念碑を建立し、観光スポットとして位置づけられた。
- (4) 地元住民との協働・交流ができた。
- (5) 「NPO・さかのせき」では、NPO 主催による「椿祭り（仮称）」開催の候補会場とする気運が高まった。
- (6) 植樹地がヤブツバキの自生の多い関崎半島部に位置した、日豊海岸国定公園内であり、豊予海峡・高島を望む景勝地であり、関崎海星館・関崎灯台とを結ぶ観光路線でもあり、今回のここに植樹したことは、今後、観光振興の一助となった。



図2 植樹予定地の環境整備（草刈り等） 図3 ツバキの植樹 図4 支柱を立てて植え付け完了！ 図5 「豊後水道」発表記念碑の建立完成 図6 大分合同新聞掲載 図7 朝日新聞掲載

II 住民参加によるワークショップの取り組み

とき 平成 30 年 10 月 20 日 場所 関崎海星館・灯台（現地踏査）、佐賀県中央公民館（ワークショップ） 参加学生 46 名（1・2 年）、NPO さかのせき、地元自治委員

活動内容 (1) 関崎半島景勝地（海星館・灯台）及びヤブツバキ自生地踏査 (2) 「ツバキオイル」の地域食材評価会（試食）(3) ヤブツバキの魅力を知る（講話）(4) 住民参加型ワークショップ
 評価

- (1) 地域内に多いヤブツバキ古木群の 1 樹（大分市名木指定候補樹：推定 194 年）を見学。
- (2) 関崎半島の現地踏査で日豊海岸国定公園・豊予海峡などの景勝地を知れた。
- (3) 地域資源として賦存するヤブツバキの自然林及び二次林を学ぶことができた。
- (4) ヤブツバキ (*Camellia japonica* L.) の魅力を講話で学ぶ。
- (5) 地域特産である、ツバキオイル利用の食材を試食し、その普及性を検討できた。（表 1）
- ① 総合評価は表 1 の通りである。② 炊きこみごはんの「色つや」、イモ天と玉子焼きの「味」が高評価 ③ 普及性については 3~4 「普通~ある」の評価であった
- (6) 「佐賀県地域の資源（海・山・歴史・文化・ヤブツバキ等）を活かした、世界に誇るまちづくり」をテーマにした、ワークショップによって、地域活性化のアイデアが多く出され、今後の活動課題の発見に繋がった。
- (7) 今回の活動が、地元ケーブルテレビの取材によって、域内に放映され、地域住民へ活動内容が伝わった。



図8 ヤブツバキ古木の見学（推定樹齢 194 年） 図9 関崎からみちの息生地・高島を望む 図10 自生地の散策 図11 「ツバキオイル」使用のレシピの試食・評価 図12 「ツバキオイル」使用ごはん・天ぷら・玉子焼き・ドレッシング

表 1 地域食材（ツバキオイル）を利用した、メニューの食味評価と普及性（アンケート）

メニュー	ごはん					ドレッシング					イモ天				玉子焼き				
	味 ^{*1}	色つや ^{*1}	香り ^{*1}	粘り ^{*1}	家で試す ^{*2}	普及性 ^{*3}	味 ^{*1}	香り ^{*1}	見た目 ^{*1}	家で試す ^{*2}	普及性 ^{*3}	味 ^{*1}	香り ^{*1}	家で試す ^{*2}	普及性 ^{*3}	味 ^{*1}	香り ^{*1}	家で試す ^{*2}	普及性 ^{*3}
評価項目	3.77	4.07	3.42	3.44	3.12	3.3	3.88	3.85	3.53	3.46	3.6	4.3	3.88	3.6	3.76	4.3	3.81	3.65	3.63
調査度数n	44	44	44	44	44	44	41	41	41	41	41	43	43	43	43	44	44	44	44

【評価（5点評価）】

※1 料理部門（5：大変よい4：よい3：普通2：悪い1：とても悪い） ※2 家で試す（5：とても思う4：そう思う3：普通2：思わない1：全く思わない） ※3 普及性（5：とてもある4：ある3：普通2：あまりない1：全くない）



図16 ヤブツバキの魅力を知る（講話）

図17 ワークショップ（KJ法：グループワーク）

図19 A班の成果発表

図20 朝日新聞掲載（H30・11・27）

III 今後の課題

今回の事業を通じ、学生たちは佐賀県地域の課題を、5感を通して知ることができたと思われる。特に、ワークショップによって出された多くのアイデアを、具体的に解決していくために、短・中長期的な視点で課題解決に取り組みなければならない。そのために、大学及び学生達とNPOとの一層の連携・協働によって、プロジェクトチームを編成し、一つ一つの課題を、具体的に解決していく取り組みが必要である。こうした、取り組みの過程の中で、地域の活性化は醸成されていくものと考えられる。

「佐賀関×APUみらい共創プロジェクト」

立命館アジア太平洋大学

実施背景

- 2017年、APUでは学生グループが発案したイベントや、取り組む期間が限定されたプロジェクトの支援を行う「イベント・プロジェクト支援制度」を整備。活動形態により、「自立イベント型」「選抜プロジェクト型」「企業・団体共創型」の3つのタイプがある。
- 大分商工会議所佐賀関支所より APUに対し、「APUの学生の目線とアイデアをもって佐賀関の良さを再発見し、街づくりに活かしたい」との依頼を受け、パンパシフィック・カップー株式会社佐賀関製錬所の協賛の元、企業・団体等とAPUの学生が共同プロジェクトを行う「企業・団体共創型」初の取り組みとして実現した。



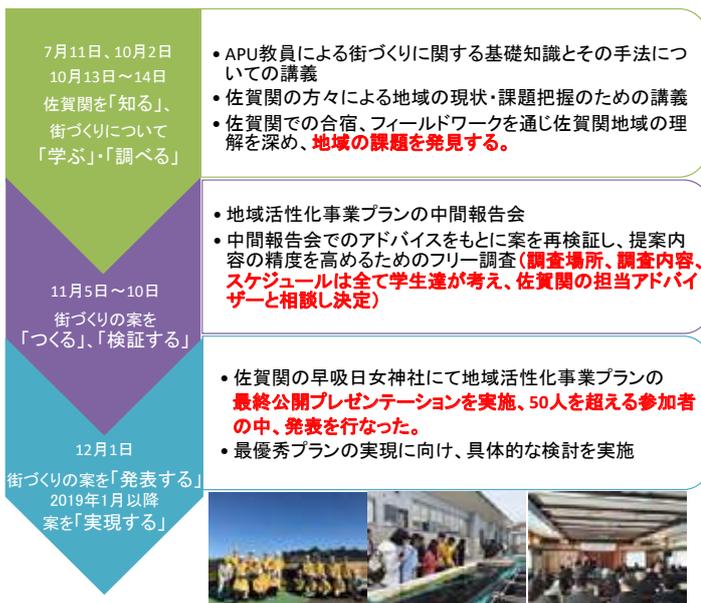
目的

- 本学学生が佐賀関の活性化に資する事業プランを提案し、学生の視点から佐賀関地域の新しい魅力を発見し、その魅力を地域の外へ発信する方法を考え出す。
- 学生と佐賀関地域の住民の連続した交流を行い、世代や国境を越えた学びあいをを行う。
- 本学学生は、グループワークやプロジェクト遂行に関わるコンピテンシーやスキル(異文化理解、コミュニケーション能力、計画性ないし企画力、リーダーシップ、調査力)のほか、地域開発に関する知識の習得、問題発見・解決力を獲得し、地域活性化に貢献する。

概要

- 実施期間: 2018年7月11日(水)～12月1日(土)
* 10月2日(火)より佐賀関での活動開始
- 実施場所: 佐賀関地域、立命館アジア太平洋大学
- 連携企業等: 大分商工会議所佐賀関支所
パンパシフィック・カップー株式会社佐賀関製錬所
- 参加学生数: APU学生15名、3名または4名の4チーム編成で活動
参加者の半数が国際学生
(中国3名、スリランカ2名、ベトナム、インドネシア、
バングラデシュ各1名、日本7名)
※本プロジェクトでの使用言語は日本語のみ

取り組み内容



学生が直面した困難

- 全グループとも、限られた時間の中で、学生主体で佐賀関地域の課題を発見し理解を深めること、また複数のアイデアから具体的な事業プランとして提案をまとめることに苦労した。
- 文化の違いや言語の壁によってコミュニケーションが円滑に進まないグループがあった。

学生による事業プラン

佐賀関地域の課題

少子高齢化、人口減少、空き家の増加、佐賀関地域内での連携の弱さ、学校の減少、交通の不便さ、点在する観光スポット、町に賑わいが無い、観光客数の減少、等

佐賀関地域の強み

- 静かな環境、豊かな自然
- 観光資源
- 漁業
- 充実した病院施設
- 利用者が増加している高島キャンプ場
- 関アジ関サバの知名度
- 綺麗な風景/天然資源
- 風情ある町並み、観光スポット
- 佐賀関の海に漂流する流木
- 古い町並み
- 豊かな自然
- 空き家

事業プラン

「子供の理想郷」

小学生、中学生を対象に佐賀関で様々な仕事体験ができるプログラムを実施し子供が佐賀関に集まる仕組みを作る。その後、廃校を利用しプログラミングを学べる教室を展開するなどして、IT人材を佐賀関で育成し、子供人口増加につなげる。

「高島キャンプ場の付加価値向上」

国道九四フェリーの乗客へのPRやSNSを通じてキャンプ場の魅力を発信し、またキャンプ場の営業期間を延長して利用者を増やし、観光客の増加につなげる。

「ものがたりのまち」

佐賀関の点在する観光スポットをつなげる小説(ものがたり)を作り、また、小説の作者を招いたイベントを佐賀関で開催し「ものがたりのまち、佐賀関」として観光客誘致および佐賀関観光全体の結びつきを強める。

「まちなか流木アート」

地域で佐賀関に漂流してくる流木拾いを行い、それを活用してアート作品を作成する。展示と販売の二軸から、佐賀関を流木アートの町として活性化させる。

審査結果

- 「まちなか流木アート」が最優秀プランに選出
- プランの実現に向けた佐賀関地域の方と学生の打ち合わせを1月中旬に実施

学生へのアンケート結果

- 約9割の参加学生が、プロジェクトに参加して満足していると回答。
- 全ての参加学生が、本事業に参加したことによって地域への理解が深まったと回答。
- 一方で、もっと長期間にわたりプロジェクトを行いたかったとの要望も複数有り。<その他の参加学生の声(一部)>
- 地方創生の流れが勉強できたため、参加してよかった。
- 大学と地域の取り組みとして幅広い観点から発想する事ができ、満足である。
- 地域の様々な方が関わってくださり、沢山お話を聞いて非常に良い経験ができた。

本事業の成果

佐賀関地域

佐賀関地域が一体となって連携、協力し、情熱を持って継続的に活性化に取り組むことの重要性を認識するきっかけとなった。

物語やアートなど、学生ならではの視点での提案を受け、街づくりを行うための視野が広がった。

学生の力を活かして地域活性化に向けた事業プランの実現に取り組んでいく機会を得ることができた。

立命館アジア太平洋大学

学生が実際に佐賀関を訪れ、地域に住む方々との関わりを通じて自ら課題と解決策を導き、発表する経験ができた。

プロジェクトへの参加を通じて学生が佐賀関地域への理解を深め、満足を得ることができた。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

きたく部～放課後学習支援活動×放課後居場所づくり活動 / 大分大学 / 講師 清水 良彦

平成30年度
地方創生大学等
連携プロジェクト支援事業

きたく部(仮)

きたく部のあゆみ

7月 スタートアップ会議の開始

学生9名でスタートアップに向けた準備作業を開始。活動の名称を「きたく部」、主催する学生団体「開催の名称を「よしみちの会」とする。

8月 大分市種田公民館の下見

キャッチフレーズを「放課後、来たくなる場所、きたく部」に、活動内容を「①やらなきゃ」「②やりたい」「③やろうよ」に定める。

9月 ロゴマークの完成!

別府大学学生も参加し、ロゴマークやホームページや参加登録フォームの開設を進める。

10月 小中学校へのチラシの配付

種田公民館に近接する種田小学校および種田中学校に事業内容の説明、チラシの配付を行う。

10月22日 活動開始!

初回の活動には10人の小中学生が参加する。

11月26日 活動回数10回を迎える

12月17日 2018年最後の活動

1月7日 2019年きたく部始動!

放課後、来たくなる場所、きたく部!

きたく部のあれこれ

活動場所	種田公民館大研修室
活動日	毎週月曜・木曜
活動回数	18回 年度内38回開催予定
参加者数	284名 延べ人数
登録人数	41名 小学生35名/中学生6名
参加学生	20名 大分大学教育学部/経済学部/ 理工学部/別府大学
指導教員	清水良彦 大分大学教育学部 大島崇 大分大学教職大学院
後援	大分大学教育学部 大分市教育委員会



きたく部ロゴマーク「きたくん」
(デザイン: 別府大学3年 薬師寺藍)

きたく部通信第1号

2018年10月29日(月)
文責: 高岡良輔 田中大地
伊藤実美 大島美奈

10月22日(月) 活動開始!

10月22日から「きたく部」の活動を開始しました。期日に合わせて10人の子供たちが参加していただきました。最初は緊張の中でしたが、その後は、大学生とのトークセッションなどがあって楽しみな様子が見られました。宿題で分からない問題があってもまずは自分で考えたり、大学生に質問してみたりと学びの姿勢が印象に残りました。教職を目指す者としてとても良い刺激になりました。これからは、学校では経験できない様々な活動を通して、子どもたちが学びたいこと、大学生やほかの子と一緒に取り組むことを通じて、コミュニケーション能力や知的好奇心の育成を図ることができればと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

11月のスケジュール

月曜日	水曜日
5日 16:00-18:30 大研修室	6日 16:00-18:30 大研修室
12日 16:00-18:30 大研修室	15日 16:00-18:30 大研修室
19日 16:00-18:30 大研修室	22日 16:00-18:30 大研修室
29日 16:00-18:30 大研修室	29日 16:00-18:30 大研修室

※変更等がある際はホームページやTwitter、メールなどでお知らせいたします。

学生フリースペース

こんにちは、大分大学の高岡員輔です。
とっぴんですがこのご質問!!

Question: りょうすけさんは、果物が大好きです。その果物がいまどきならいかにしてりんごがもっと大分がブランド品になって、とっぴんが売れたらいいな、とある果物を見ています。りょうすけさんが売りたい果物はなんですか?

答えが知りたい人は、僕に聞いてね!

こんにちは、大分大学教育学部3年の田中大地です。藤本副指導です。大学生も参加して下さるご質問をありがとうございます。ご質問にいきます。

くまもとクイズ
1.くまもと
くまもとけんゆるキャラはどれでしょう
2.もんしゅ
3.くまもと
4.くまもと
5.くまもと
6.くまもと
7.くまもと
8.くまもと
9.くまもと
10.くまもと

きたく部通信 (月1回発行)
担当学生が作成し、保護者へ配付する。

放課後学習支援活動×放課後居場所づくり活動

きたく部のアルバム



←立て看板 ↓活動の様子



←学習サポート ↓交流の様子



〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

紫を巡る文化と科学～紫根と貝紫～ / 大分大学 / 准教授 都甲 由紀子

紫を巡る文化と科学 ～紫根と貝紫～

大分大学 教育学部 都甲 由紀子
被服学研究室 <https://togolabo.jp>

プロジェクトの目的

- ・大分県内で育つ紫草とアカニシから採れる紫色の天然染料、紫根と貝紫について知る
- ・竹田市で紫草栽培や紫根染色に携わっている方々や貝紫が採れるアカニシの育つ中津干潟を守る活動をされている方々と大分大学の学生が交流することにより、現在住んでいる場所の近隣地域や大分県への愛着を深め、地域と染色文化に関する理解を深める
- ・学生や紫根染交流会参加者等を対象として講演会を開催し、学生が一般の方と共に紫について知り、紫草栽培ができる環境や貝紫が染められるアカニシが育つ水辺の価値を実感する機会を提供する

体制

- 連携先： 竹田市、農事組合法人 紫草の里営農組合、NPO法人 水辺に遊ぶ会、手染メ屋
- 活動地域：竹田市、大分市、中津市
- 対象学生の学年および人数：
大分大学教育学部 3年生 2名
4年生 4名
計 6名

概要

- 大学での染色にかかわる学び
↓
竹田における天然染料栽培
中津干潟に育つアカニシの貝紫
天然染料による染色活動
- 紫の染料を通して
地域資源の気づきに
つながる実践
- 実践1：紫根染交流会への参加・地域の方々と交流
実践2：講演会「紫を巡るものがたり ～竹田の紫草～」
実践3：中津干潟アカデミアでの発表
- プロジェクトB大分で採れる天然染料をめぐる文化と科学との連携

実践1 紫根染交流会への参加

- 【実施日時】 2018年11月23日 8:45～16:00
【場所】 紫草の里染色工房 (竹田市大字志土知919-5)
【主催】 農事組合法人 紫の里営農組合
染司よしおか 吉岡 幸雄 氏
【参加者】 紫の里営農組合のみなさま・一般参加者 足利由紀子氏、青木正明氏、プロジェクト参加の学生6名・教員2名

- 【内容概要】 紫の里営農組合のみなさまが志土知で栽培し、掘り上げたばかりの紫根により日本古来の染色方法(楮灰媒染)で絹ストールを染色した。11月22日に開催したプロジェクトBの講座講師2名、教育学部の安道百合子先生、温泉染研究家の行橋智彦さん、多くの関係者とともに参加し、交流を深めた。

- 【日程】
8:00～ 受付
8:45～ 9:00 開会
9:00～12:00 染色会 午前(3回染色)
12:00～13:20 昼食
13:30～15:30 午後(2回染色)
16:00 閉会



実践2 講演会「紫の系譜」の開催

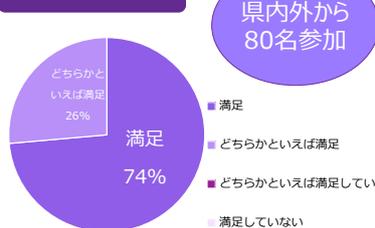
- 【日時】 2018年11月24日 14:00～15:30
【場所】 大分大学教育学部100号教室 (旦野原キャンパス)
【講師】 染司よしおか 吉岡 幸雄 氏

【内容概要】

吉岡幸雄先生のお父様、吉岡常雄先生が世界を旅して蒐集された貝紫の古代織物、アツキガイ科の貝、吉岡幸雄先生が染色された紫根染めの糸、染織品や天然染料の実物を拝見しながら幸雄先生のお話を伺った。竹田の紫根と中津干潟のアカニシの貝紫で染色実演を実施した。



受講者の満足度



【感想】

- 竹田の近くに住んでいたのに、紫根のことは知りませんでした。知れてよかったです。
- 色の変化(貝紫)がとても不思議でした。紫だけでなく他の色の文化や歴史も知りたくなりました。
- 染色で色が変わるのがおもしろかった。
- 貝紫の原点を知れた。紫草を栽培しているものとしては、ここに参加してますます頑張らなければと思います。
- 大分の紫を広めよう。

実践3 第2回中津干潟アカデミアでの発表

- 【日時】 2018年12月23日 9:00～16:30
【場所】 小楠コミュニティセンター (中津市)
【発表】 貝紫の歴史
-アカニシ染色の地域教材開発を目指して- 入不二 路子 さん 大分大学教育学部 4年

【発表スライドの一部】



成果・課題

- 紫根染交流会への参加や講演会の運営等を通して、実際に竹田市の地域の方々とふれあい、様々な体験をすることにより、学生の地域や染色に対する理解が深まった。さらに、地域の染料をテーマとした染色研究に対する意欲の高まりもみられた。地域への愛着を深める機会にもなった。
- この取り組みをさらに発展的に継続していくことが今後の課題である。

謝辞

講師をお引き受けくださいました吉岡幸雄先生、染色実演にご尽力くださいました松崎さま、青木正明さま、NPO法人 水辺に遊ぶ会 足利由紀子さまはじめみなさま、紫草の里営農組合 田北真輔さまはじめ組合員のみなさま、講演会ご参加のみなさま、紫根染交流会で交流したみなさま、中津干潟アカデミアでお世話になったみなさま、講座の広報・事務・運営にご協力くださいましたみなさま、関係各位に謝意を表します。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

大分県内における観光・交流人口・地域公共交通の活性化をめざした産学官および高大連携による地域活性化支援プロジェクト

大分大学 / 准教授 大井 尚司



おんせん県おおいたに若者観光客を呼び込むには？ LCC・県・大学の協働による観光情報発信に関する調査研究

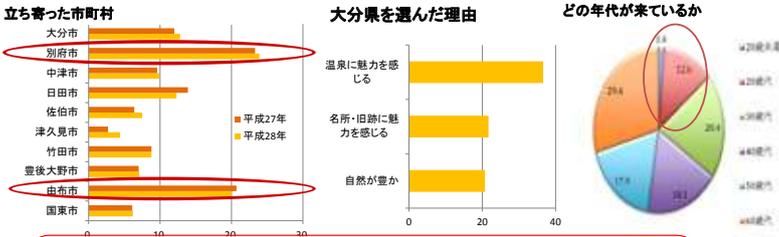
—大分県内における観光・交流人口の活性化をめざした産学官連携による地域活性化支援プロジェクト—



安部七海・緒方季夏・小代愛理・佐藤佳代子・澤谷真生・牧優菜・溝部智佳子（大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室）
大井尚司（大分大学経済学部門）、ジェットスター・ジャパン株式会社、大分県企画振興部観光・地域局交通政策課

① 背景と目的・研究対象

背景：大分で観光、の実態は？（県の調査から）



研究目的

大分県内に若者が観光に来るには？
LCCを使ってもっと来訪増やすには？
⇒「若者」の「観光」意欲を促進する
魅力・情報の伝え方の提案
(そこに、県・JJP社がどう絡むか?)

研究手法・対象

JJP就航の「首都圏」の「若者」に意向調査
(2018.9 ツーリズムエキスポでアンケート調査)
* 対象：20歳以下、首都圏在住の来訪者
← JJP社の客層と掘り起こすべき層を考慮
* 桜美林大学・丹治研究室の学生も協力

大分 = 温泉、湯布院・別府 → それだけ？
若者（20代以下）来訪 = 1割強 → なぜ？
… 県もジェットスター（JJP）も何とかしたい
(LCC利用促進、観光来訪の増加)

② 県内観光における課題整理：情報発信の側面を中心に

県の観光情報発信に関する課題

- 観光資源としての認知が「温泉」に偏る ← 「食」など他の資源は？
- 宣伝ツール活用：Instagram ≠ 観光魅力発信、発信はHP
- 県の戦略：ターゲットが若者ではない？（戦略、パンフ情報）

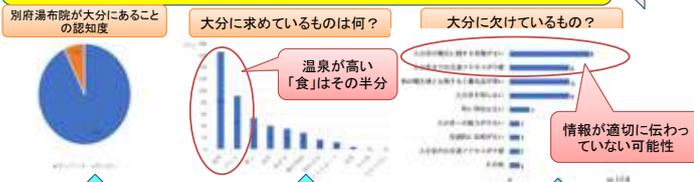
情報収集方法、首都圏での発信の課題

- 首都圏旅行代理店での発信は「九州」という現実（×「大分」）
- 情報収集（目的地選択）：Instagram・口コミの影響大（×HP）
- 観光に求めるのは「食(グルメ)」が強いという現実

情報発信の手段・タイミング・内容に課題 + 認知度向上がカギ？

③ 首都圏の若者の大分観光に関するアンケート結果とその解釈について

「大分を知ってもらう」ができていないか？



「大分」の存在自体は認知

「大分」=「温泉」は認知
それ以外が相当低い

「大分」に行きたくない人の声からわかる大分の課題は「情報不足」「不便」の思い込み

- 大分はわかっている、行きたいという希望はあり
- ただ、大分の中身は「別府湯布院」「温泉」どまり
- 他に求めているものの比率が低い = 認知されていない？
- 「情報」が適切に得られない、だから行きたくない（行けない）

相互に関係

旅行に関する情報入手の方法、タイミング、内容は？



旅行先を決めた後は紙媒体かSNS。公共HPの利用は少ない。

旅行情報(紙)の発信場所

8割超が紙利用

紙以外はSNS、次は「公共以外のHP」

- Instagramや口コミ = 経験知、がきっかけづくりの第一歩
- 温泉よりも食事 = 温泉での差別化は難しい？
- 実は紙媒体も使用、ただ行く前に入手したい

④ 提案 — 大分県内に若者が観光に来るには？ LCCを使ってもっと来訪増やすには？

「温泉」以外の情報発信（特に食） = 内容面

発信内容の変更

求めている情報：グルメ情報、交通関係
「別府湯布院」の知名度を借りつつ、それ以外の資源の発信

きっかけづくり + 信頼できる情報を適切な媒体・タイミングで発信

きっかけ(旅行先に選択) ⇒ Instagram広告の活用
決定後 ⇒ 紙媒体・HPで確度の高い情報を発信
着いてからでは遅い = 行く前に発信

つまり

航空会社（JJP）や県が単体での発信、HPや紙媒体での一次発信では「選択肢」に入らない
→ 年代別の行動傾向 + 発信情報の精選 + 発信タイミング、を考えた媒体選択、連携策の必要性

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

おおいた応援Music(CD)を制作し、Promotion Video(PV)を配信する / 大分大学 / 准教授 矢野 英子

募集!

地方創生大学等連携プロジェクト支援事業(高度社会事業)

おおいた応援MUSIC

大学生の目から見た“おおいた”を応援する音楽を一緒に作ろう!
 皆さんのアイデアをみんなで出しあい、音楽はプロのMusicianにつけてもらいます。歌詞やコンセプトに合わせて、動画を撮影、音楽とともに編集し、Music Videoを作って配信。おおいたを盛り上げる曲を作らない?

こんな人募集 (20名程度)

大分を応援したい人、大分の魅力について語りたい人、大分について結構知っている人、大分弁を愛する人、大分弁をよく知っちゃう人、紹介動画を撮ってみたい人、MUSIC動画の編集をしてみたい人、みんなと協力して何かを創り出したい人など。

第1日目 6月20日(水) 12:30 経済学部 203教室
 「プロジェクトの概要と今後の予定について」

*人数把握のため、参加希望者は、予め下の教員にメールで連絡して下さい。

- 今後予定 *全過程に参加できなくても大丈夫です。相談してください。
- 1日目 6月20日(水) 12:30 経済学部203教室
 - 2日目 6月27日(水) 5限目(予定) 経済学部教室
「大分の魅力を話し合い、歌詞やコンセプトを出しあおう!」
 - 3日目 7月13日(金) 6限目(予定) ホール
ライブでmusicianと一緒に歌詞を整える。その後、文芸と撮影。
 - 4日目 7月14日(土) 午前中前日の続きの作業、その後、場所を移動して撮影。
- その後は、有志により各担当での作業(撮影、編集)になります。

問い合わせ: 矢野 英子
 安部 井

講師は、これまで日本各地で応援MUSICを製作してきたSING J ROY氏(ミュージシャン)と、神本秀爾先生(久留米大学)。



Sing J Roy

さんの作品を見てみてね。



まず、大分のアピールしたい点をあげ、曲に含む項目を厳選していきました。食べ物、観光地、アピールポイントを絞りつつ、ターゲット、可能性、効果、様々な点を検討し、歌詞に入れる項目を決めていきました。短い期間でしたが、ほぼ毎週集まって、話し合いを続けました。

プロのレジェンダー、SING J ROYさんが、毎月から大分へやってきました7月14日当日、緊張しながらも、歌詞と一緒に作っていました。たくさんのお墨出しをもらいながら、同時に曲もできていく過程に感激!プロだ!!

2日目、大学のバスに乗り込み、また、和田さんの車も出していたり、学生が目的とする場所を歩きながら、3台のカメラで動画、静止画を撮影していきました。

経済学部の先生方やCOC+推進課のみなさまのお力をお借りし、カナルホール、JRおおいたんシヤ、府内5番街、楽屋丸館、OPAM、うみたまご、高輪山などで見学、撮影が可能になりました。



当日の講師: SING J ROY氏(ミュージシャン)、神本秀爾先生(久留米大)
 特別参加: のっぴなしさん(イラストレーター)

JCOM大分は、1日目の活動状況を取材撮影にきてくれ、週末のニュースで流してくれました。

表背景では、ステージの合同に音楽を流してもらったのと、3日目の地域解放日に、おおいたんしMUSIC「それいけ!おおいたんし」のメイキングを上映しました。

- 活動の総括と残る課題
1. 予定通り、プロの支援を得て、学生を中心に歌詞、曲が完成。試作映像も作成した。
 2. 学生の参加状況については、広範囲が不足していたこと、また、それぞれの授業や課外活動があり、任せられる活動にかなり限りがあつた。また一方で、中心となって動いてくれた少数の学生たちの負担過多にならないように配慮が必要だった。
 3. 試作映像までは作成したものの、資金が尽き、振り貯めた映像を編集する作業、またそれを広報する活動ができなかった。
 4. 今後、撮影した映像を編集する学生スタッフを獲得し、最終版を完成させたい。
 5. さらに、CDを作成し、映像をYouTubeにアップするなど、大分各所でも流してもらえような活動につなげたい。

多大なるご教示、ご支援をいただきましたCOC+推進課の皆様、先生方に心より感謝申し上げます。

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2018〉

大分県における「中国料理」（飲食店）の実態に関する調査 / 大分大学 / 教授 包 聯群

平成30年度 大分県における「中華料理」店の実態に関する調査分析 2019年01月29日

包ゼミ（大分大学 経済学部経済学研究科）

大分県における「中華料理」店の実態に関する調査分析

包ゼミ（大分大学 経済学部）

2019年01月29日

プロジェクト事業の目的

- ・大分県における「中華料理」の経営実態を明らかにし、大分県の街づくりに貢献することが目的である。
- ・大分県在住の中国人経営者と日本人経営者の「中華料理」店の経営実態を比較することによって、問題点を抽出し、より良い環境を作る方を考え、地域への貢献を目指す。
- ・大分県の国際性、多文化共生地域社会作りなどを推進していくために、まず、「中華料理」の経営実態を把握し、問題点があれば指摘し、大分県の街づくりに貢献する。
- ・地域を対象としたフィールドワーク活動を通じて、地域のために何かができるのかを考える。また、地域社会から様々なことを学ぶことができ、私たち自身の成長にも繋がる。

調査概要

調査対象

臼杵市、津久見市、別府市、大分市

調査時期

2018年7月～2018年11月（計4回）

調査内容

「中華料理店」の実態を明らかにするために、中国人経営者と日本人経営者の「中華料理」店を対象にして、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。

調査者

包ゼミ3年生以上、コーディネーターの社会人大学院院生一人。



調査実態①【餃子】（臼杵市）

「餃子」は、今年で開店12年になる臼杵市の中華料理店である。従業員は店長1人、店長は調理師専門学校に通い、店長自身が中華好きというのもあり、中華料理店を始めた。

アンケート調査の結果

店舗の立地には満足しているが、現在の経営状況には満足していない。食材や調味料は日本産だけでなく中国産のものも使用している。また、仕入れなどに困ったことはなく、国や県による補助金制度を利用していることがある。お店の料理の味は日本人の舌に合わせたものである。

インタビューの結果

業の客層はサラリーマンが基本的に多く、主婦も利用する。夜は家族連れや会社の宴会なども行われる。男女比は半々で地元の人がほとんどだが、市外からも立ち寄るお客さんもいる。お店の人気メニューは麻婆豆腐や回鍋肉、担々麺などである。お店の売り上げは開店当初は1000万円を超えていたが、現在は800万円に落ちている。店長の考え今後のお店の展望を聞くに特になく、拡大も考えていないようだが、ただ地元の人のために安全で美味しく作ることを常に心がけている。問題点としては、お店の後取りがないことと考えられている。



調査実態②【花茶】（津久見市）

「花茶」は開店から7年になる津久見の中華料理店である。従業員は店長以外に1名雇っている。店長がお店を開いたきっかけは店長が中華料理が好きでお客さんにも美味しい中華料理を食べてもらいたいと思ったからである。

アンケート調査の結果

現在の立地や経営状況には満足しているが仕入れの点において準備が急にならなくなったため困っている。お店の外観や内装のデザインはポップな雰囲気になるように工夫されている。食材や調味料は日本産のものだけでなく中国産のものも使用している。異国からの補助金制度は利用したことはない。現在のお店の料理の味は日本人の舌に合うように作られている。

インタビュー調査の結果

業の客層についてサラリーマンがほとんどで年配の方が多い。夜は家族連れや夫婦だけでなく、若者もお酒を飲みに来る。男女比は夜は男性が多く、夜は比較的男性が多い。お店は人気メニューは東方セラミックや菓子の餅、黒ごまプリンなどである。また、オリジナル料理も作っており、師匠から教えたもらった料理に店長ならではのアレンジを加えている。お店の売り上げはオープン当初から半年は上がり、今は落ちている。お店をインターネットでも宣伝することによって地域行事があるときは意外からも予約がある。現在の場所でお店を開かれたメリットは地元の友達が増えてきたこと。お店の今後の展望は今以上の料理を作りたいという。



調査実態③【昇陽】（別府市）

「昇陽」は中国人が経営しているお店で、他に中国人従業員が2人働いている。最大で2年間日本語の勉強をしたが、就職が難しく、中国で料理屋を始めていたので、日本で起業することを決意した。

アンケート調査の結果

経営状況や立地には満足している。また、お店の内装なども工夫していた。食材や調味料は日本と中国のもの両方使用している。特定の仕入れ先があり、開店当初から仕入れに困ることはなかった。国や県からの補助金制度は知らず利用していない。おススメは、酢豚、エビチリ、麻婆豆腐、ユウリチなどである。

インタビュー調査の結果

業の客層は、高齢者の方やサラリーマンなど男性が多く、夜はAPUの学生が多い。1年前より中国や韓国からの観光客が少なくなったという。理由は不明である。売り上げは毎年右肩上がりだったが、今年はあまり良くない。客がFacebookなどで投稿してくれて、拡散され、広告にはなっている。問題点は、日本語の問題で早口でしゃべる酔っぱらい客などの言葉がうまく聞き取れず困ることがあるという。今後の展望として、客（特に観光客）の減少が心配であるが、現状を維持し、状況によってまた臨機応変をするという。



調査実態④【パングス】（別府市）

「パングス」は元留学生であった夫婦二人で経営している「中華料理」のお店である。これ以外に、夫が会社も経営し、主にAPUの学生を対象にしているという。

アンケート調査の結果

今の経営状況には満足していないが、別府の商業地域に位置しており、駐車場もあるので立地には満足している。また、アルバイトとして従業員を数名雇っている。大分県の補助金制度を利用したことはない。お店の料理については食材、調味料の多くは中国産のものにこだわっている。本場の味を再現している。ミルクティーの原料は海外から輸入しているため、仕入れが大変な時もあった。

インタビュー調査の結果

日本でお店を開いた理由：日本で留学したときに自分が気軽に中華料理を食べられる場所がなかった。そのため、そのような学生たちが平穏な価格で中華料理を提供したかったのである。日本語をある程度理解できるため、言語的な問題はなく、お店も右肩上がり売り上げを伸ばしてきており、ほかの事業も同時進行で進んでいる。今後の展望としては、経営を続けていく予定である。今のところ特に問題点はないという。



調査実態⑤【福源】（大分市）

「福源」は以上のお店と異なり、自営業ではなく、チェーン店として「中華料理」を営んでいる。また、従業員は全員中国人で、東京、大阪、名古屋などの技能実習生が転職してくるという。店長さんは、中国でも料理屋をしていたが、収入は低かったため、日本に来れば経済的に余裕があるようにしたい。来日したという。大分市ですべてのお店を開店している。

アンケート調査の結果

立地や経営状況には満足している。肉類はタイや日本産で、野菜は大分産。調味料は中国産、調味料は福源に販売会社があり、そこから仕入れられているが、中国からの入荷が遅延されれば、仕入れに手こずる時がある。大分県または国としての補助金制度は知らず、利用していない。お店の味は日本人向けのものになっており、特徴としては、油は少なめで、塩味も控えめ、甘く作る。また、野菜は新鮮なものを使用している。

インタビューの結果

業の客層は、30代～40代のサラリーマンが中心で、夜の客層は家族連れが多い。また、男女比は、夜は男性が多く、夜は男女両方くらいである。おススメの料理はサラダで、人気メニューはエビチリ、ナンジャオ、ロース、麻婆豆腐である。お店は右肩上がり売り上げを伸ばした。その要因は、常連客を大事にすること。また、中国人もたくさん来るため、中国人が来た時は、メニューには載っていない、郷土料理を振舞ったりする。その結果、口コミでも評判が拡散されてゆき、客が増えている。課題点はシェフが一人で負担が大きいこと。売上も伸びなければ閉店し、店長はクビになり、職を失うこと。そのため、一所懸命努力する。日本語をさらに勉強する必要がある。



結論

- ・大分県在住の中国人と日本人が経営する「中華料理」店を調査することによって、その実態を明らかにすることができた。
- ・共通点は、料理を除けば両者ともに「中国文化/中国特徴」をアピールするため、お店を、中国の「パングス」、「福」文字、「中国結び」などで飾っている。
- ・日本人経営者の場合、中国と何らかの「縁」、あるいはきっかけがあって、「中華料理」を営んでいるためである。
- ・中国人経営者の場合、「研修生」か「留学生」がほとんどであり、創業するきっかけは、「日本で起業したい」、「ピザの問題」、「日本で借金があるから」など様々な理由であったことがわかった。
- ・中国人経営者の中で成功している人がいれば、そうでない人もいる。家庭事情や日本語の問題も生じている人がいるが、仲間や親戚に助けをもらっているという現状である。
- ・中国人経営者の特徴は、留学生のために手頃な価格で中華料理を提供したり、中国人のお客さんにメニューに提示していない料理も作ってあげたりしている。
- ・中国人経営者の「中華料理」は、（特別注文を除けば）「本場の中国料理」ではなく、味は日本人にも合うように調理されている。上記のような特色が一部の「中華料理」のお店が売上を右肩上がりさせている主な理由であると考えられる。
- ・大分県在住の中国人の「中華料理」店の経営はすべて課題とは言えない。異文化共生地域社会を作るために、彼らに街づくりに貢献してもらうことも重要であろう。異文化コミュニケーションの壁を乗り越え、当地自治体も彼らもお互い異なる努力が必要であろう。



大分観光バーチャル体験プロジェクト

(VRのデモがありますので是非、体験して下さい！)

大分大学 大学院 知能情報システム工学コース

有吉大樹, 山中雄太, 堀江宥仁, 東大輔

工学部 知能情報システム工学科

大峯隼人, 黒木一磨, 後藤光貴, 和田悠登, 菊池究, 桑平隼弥, 西村千波, 山本剛士



概要

- 様々な分野からVR技術に注目が集まっている
- VR(バーチャルリアリティ): 人間の感覚器官に働きかけ、現実ではないが実質的に現実のように感じられる環境を人工的に作り出す技術の総称
- 近年、VR技術が手軽に体験できるようになった
例) PlayStation® VR、VRお化け屋敷、youtube
- 20代~60代までの男女1,207名を対象にVRに関する調査を行った中で**最も体験したいVRコンテンツは「観光」**であるという結果が発表された(株式会社Viibar調査, 2016)



目的

VR + 観光 + 大分

大分大学でのVR技術の研究を生かして
大分県竹田市の観光スポットを対象とした
大分観光バーチャル体験コンテンツの作成

竹田市地元企業、自治体との意見交換

参加団体

- ・商工観光課 様
- ・観光ツーリズム協会 様
- ・くじゅう花公園 様
- ・九州アルプス商工会 様



6/25活動計画打ち合わせ

- ・撮影場所の提案
- ・蛍・くじゅう花公園撮影
- ・タイムラプス撮影
- ・コンテンツの活用・改善

活動実績

- < 蛍 >
 - ・5/21 七瀬川
 - ・5/28 長小野
 - ・6/4 星降る館
- < くじゅう花公園 >
 - ・8/7 ベゴニア
 - ・8/29 サルビア
 - ・9/16 星空の巡り
 - ・11/21 打ち合わせ
 - ・12/18 "
- < 竹田市役所 >
 - ・6/25



撮影に関して気付いた点・意見交換会

- ・天気の悪いときの代用コンテンツにならないか
- ・登山コースはGoogleマップにはないので利用できないか
- ・部屋の内装などを見てもらうのに使えないか
- ・コンセプトや意志を持って作る
- ・コンセプト「星と花」
- ・体の不自由な方に向けて活用できれば良い
- ・SNSによって若者を呼びたい
- ・春来た人に夏、秋の花を見てほしい
- ・リピートを高める仕組みが欲しい
- ・冬場のコンテンツが欲しい
- etc.

VR撮影機材

立体音響用マイクロホンアレイ(試作)
360度集音用に作成した
8チャンネルマイクロホン

全天球映像用カメラRICOH THETA S/V
スマートフォンでの遠隔操作にて録画を行う。



THETA S



THETA V

VRコンテンツ編集

- ・映像と音声の同期
- ・必要な場面の抽出
- ・Youtube用VR動画への変換

作業風景



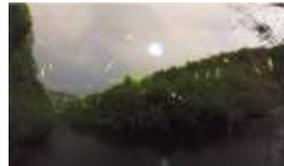
打ち合わせ風景

- ・立体音響の導入
空間的に音源を配置
+
頭の回転に合わせて音が追従
↓
臨場感の向上



蛍とくじゅう花公園の撮影

蛍



くじゅう
花公園



星空の
巡り



花と星のイベント

くじゅう花公園 Facebook



活動写真
QRコード



地域連携による情報通信技術の農業分野への応用

上原 優衣¹ 古島 孝晃² 草野 夏輝² 永嶋 沙紀² 丸橋 貴弘² 大竹 哲史³

大分大学 ¹大学院工学研究科 / ²工学部 / ³理工学部

1. 何を実現したいのか？

茶畑モニタリングシステムの構築

- ▶ 目標
 - ▶ 散水量の最適化(霜, 乾燥, 高温)
 - 茶畑環境を認知して散水の必要性を予測
 - 散水量(コスト)削減 / 茶畑環境(クオリティ)維持・向上
- ▶ 具体的には
 - ▶ 霜の発生予測・警告
 - ▶ 乾燥・高温時の警告
- ▶ 茶畑のセンシング
 - ▶ 土壌温湿度, 大気温湿度・気圧, 茶樹周辺温度の監視
 - ▶ 畑の位置ごとの茶樹周辺温度・土壌温湿度差等を調査



2. 茶畑モニタリングシステム構成図



3. 連携企業からの要望：工場環境の把握

製茶工場内の環境モニタリングシステムの導入

▶ 導入期間: 2018/6/20 ~ 2018/7/9 (2番茶)

システムの主な構成要素

通信ノード

- ▶ 親機
 - ▶ 主な構成
 - ▶ センサコンピュータ (Raspberry Pi 3)
 - ▶ 無線通信機 (TWELITE BLUE)
 - ▶ 携帯通信端末
 - ▶ 電力
 - ▶ 5V 2.5AACアダプタ

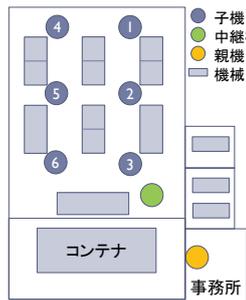
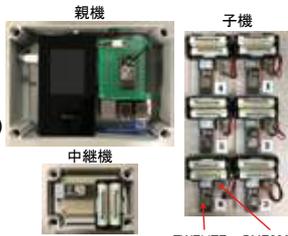
中継機

- ▶ 主な構成
 - ▶ 無線通信機 (TWELITE BLUE)
- ▶ 電力
 - ▶ 単三電池 × 2

センサーノード

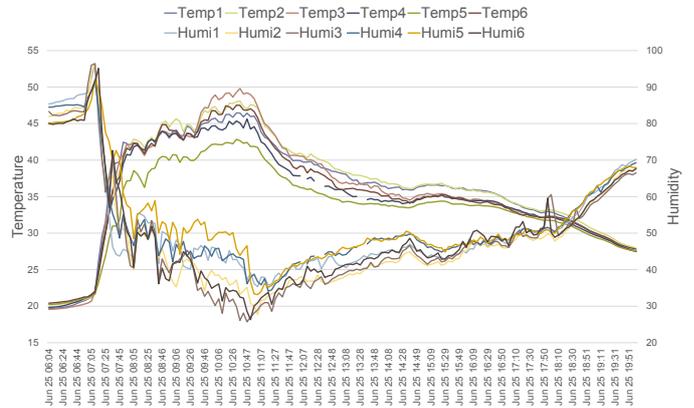
子機

- ▶ 主な構成
 - ▶ 温湿度気圧センサ (BME280)
 - ▶ 無線通信機 (TWELITE BLUE)
- ▶ 電力
 - ▶ 単三電池 × 2



工場内配置図

製茶工場内温湿度推移(2018/6/25)



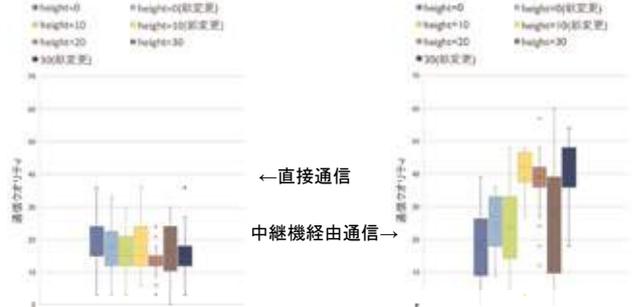
- ▶ 製茶装置メーカーと情報交換
- ▶ 成果を国際会議で発表 ICCE2019@Las Vegas 2019/1/11-13

4. 今期の活動・結論

- ▶ 連携企業への訪問回数: 13回 (6月~12月)
- ▶ 連携企業と共同研究契約締結 (2018/6/7付)
- ▶ 工場で使用したシステムを防水にして畑に設置
 - ▶ 電波環境が悪くデータの収集がほとんどできなかった
 - ▶ Zigbeeは地面に近いと電波が飛びにくい
- ▶ 電波環境の調査
 - ▶ 調査方法
 - ▶ 計4か所を実施
 - ▶ 高さを変え, 中継機を入れ電波強度を計測
 - ▶ 測定時間: 約1分/位置
 - ▶ 調査まとめ
 - ▶ 中継機の適切な利用により電波状況を改善可能
 - ▶ 追加調査が必要
 - 天候, 測定時間等を考慮



畑1, 子機2での直接通信と中継機経由通信の通信クオリティ比較



電力問題への取り組み

- ▶ 問題:
 - ▶ 中継機はsleepできないため電力消費が大きく
 - ▶ 乾電池駆動は難しい
 - ▶ → 太陽光発電システムの導入を検討



導入予定の太陽光発電システム

5. 今後の予定

今期の調査をもとに, 電波環境改善ならびに電力問題解決に取り組む

〈おおいたプロモーションプログラム2018〉

地域医療を活性化する看護の魅力—診療看護師 (NP) の活躍—①

地域医療を活性化する看護の魅力—診療看護師 (NP) の活躍—②

地域医療を活性化する看護の魅力—診療看護師 (NP) の活躍—③ / 大分県立看護科学大学 / 教授 小野 美喜



2018年度 地方創生大学等連携プロジェクト支援事業

地域医療を活性化する看護の魅力—診療看護師 (NP) の活躍

大分県立看護科学大学 NP事業推進チーム

小野美喜 甲斐博美 森加苗愛 高野政子 草野淳子 濱中良志 宮内信治 堀裕子
中釜英里佳 吉川加奈子 藤内美保 村嶋幸代 事務：大嶋佐智子 神崎純子

【プロジェクト目的】

超高齢化および医師の都市部偏在化が著明な地域医療の場では、タイムリーで平等な医療提供が課題である。この課題解決には、看護師の役割を拡大し機能を発揮することが求められている(厚労省)。本学大学院では、2008年より診療看護師(NP)コースを開設し、地域医療の課題に対応する診療看護師(NP)の養成を実施している。

本事業では、診療看護師の活動事例を紹介し、若者や医療者が、大分県が抱える地域医療の課題とともに取り組めるよう、看護の魅力を発信した。

【対象者】 若手看護師、将来看護師を目指す高校生、看護管理者等

【プログラムの展開】

1) 臼杵会場(H30年10月4日開催) 参加者44名

演者 診療看護師(NP)廣瀬福美氏・上野聖子氏

「介護施設における診療看護師の役割」等と意見交換

2) 大分会場(H30年10月18日開催) 参加者35名

演者 診療看護師(NP)塩月成則氏・高根利依子氏

「看護学の大学教育化とNPという選択肢の未来と課題」等と意見交換

3) 日出会場(H30年10月25日) 参加者21名

演者 診療看護師(NP)光根美保氏 清原小百合氏

「へき地の訪問看護で診療看護師ができること」等と意見交換

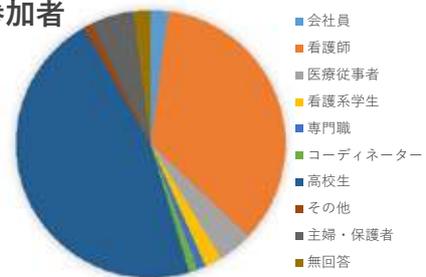
【参加者の感想(抜粋)】

- ・様々な立場の意見を聞け、看護の魅力をディスカッションできた。地域の力を考える場であった。施設と在宅の看護の違いが高校生に伝わる。
- ・自分の進路に向けて前向きになれた。将来への選択肢が増えた。多くの情報により道が開けた。看護への興味や好感がさらに強まった。

【プロジェクトの評価】

高校生や現看護職など幅広い参加者があり、地域医療の課題を共有しディスカッションが盛んであった。地域医療の中で活動する看護の選択肢がひろがったという意見が多く、大分で看護職として働くこと等将来を選択する上での、情報交換ができた。

参加者



看護師に魅力を感じたか



NPに興味を持てたか



中津アカデミア 「最新の研究から見てきた地域の宝物『中津干潟』の現在と将来 ～地域資源としての干潟の保全・活用について考える」～ 実施報告

日本文理大学工学部建築学科 池畑義人

1. はじめに

- 大分県北部に位置する中津干潟は豊かな漁場であり、そこには希少な生き物が生息している
- 中津干潟、および干潟に注ぐ山国川の流域の開発によって干潟の環境は変化している
- この干潟を維持保全するために、多くの研究者が中津干潟を研究フィールドとしている
- この研究成果を地域に還元し、あらためて干潟が地域資源であることの理解を深めるために本事業で市民向けの研究発表会（中津干潟アカデミア）を実施した

2. 講座の概要

日 時：平成 30 年 12 月 23 日（日）
会 場：中津市小楠公民館
参加者数：約 100 名
参加者の構成：行政職員（中津市、大分県等）、建設コンサルタント社員、小学生、高校生、大学生、NPO 職員、大学教員等



3. プログラム

開会の挨拶

奥塚 正典（中津市 市長）

第 1 部（干潟の地形と自然に関する話題）

大学と地域との連携の可能性
蛍光 X 線分析による中津干潟を構成する砂の由来に関する研究
山国川と中津干潟の広域的土砂動態と侵食・泥質化実態の解明
数値シミュレーションによる中津干潟の流れの研究
大新田海岸におけるカブトガニの卵塊調査
自然の力をうまく利用する～土木
中津宇佐地域における農業用ため池の水生物多様性

池畑 義人（日本文理大学 教授）
田村 まりな（日本文理大学 4 年）
鶴崎 賢一（群馬大学 准教授）
市原 元紀（日本文理大学 4 年）
河村 悠輔（日本文理大学 4 年）
小西 史恵（大分県中津土木事務所）
山下 奉海（九州大学 助教）

表彰式 中津の海の絵コンテスト入選者発表・表彰
昼食・交流 中津干潟の幸バイキング

第 2 部（干潟の生き物の話題）

砂浜生態学の 30 年
中津干潟の底生生物と物理環境の関係
干潟に生息する肉食性巻貝科の摂餌による二枚貝への摂餌選択性
干潟に生息する肉食性巻貝科による二枚貝への摂餌選択性
石垣島名蔵湾のタイドプールにおける魚類群集構造
漂着海藻が砂浜性底生生物の生活史に及ぼす影響
砂浜の遡上波帯に生息する底生生物
日本国内におけるカブトガニの外部形態についての考察
中津干潟に生息するオオシンデカワザンショウ

須田 有輔（水産大学校 教授）
南條 楠土（水産大学校 助教）
安田 風真（水産大学校 4 年）
大野 弘貴（水産大学校 4 年）
富永 翔太（水産大学校 4 年）
福田 純（水産大学校 4 年）
山本 恭哉（水産大学校 4 年）
田中 秀侑（東京海洋大学 4 年）
和田 太一（NPO 南港ウエトルランドグループ）

第 3 部（干潟の文化と利用に関する話題）

貝紫の歴史 -アカシ染色の地域教材開発を目指して-
中津干潟における環境教育の児童の情操に対する効果
中津の水辺環境を活用した環境学習の取り組み
全体の講評

都甲 由紀子（大分大学 准教授）
入不二 路子（大分大学 4 年）
岸本 茜（日本文理大学 4 年）
足利 由紀子（NPO 水辺に遊ぶ会 理事長）
廣畑 功（中津市 教育長）

以上のように、5 大学の教員、学生と行政および NPO の職員から中津干潟をフィールドとした多様な研究の成果が発表された。発表の質疑においても市民と研究者、研究者同士の活発な交流が行われていた。

4. 参加者の反応

講座終了後のアンケートにおいて 17 名から回答が得られた。満足度について
10 名 (59%) が『満足』
6 名 (35%) が『どちらかといえば満足』
1 名が無回答であった。

自由記述の意見

- 研究成果を直接聞いて興味深かった
- 地域の環境問題を話すときの参考にしたい
- わかりやすい発表が多かった
- 大分の恵まれた環境について伝えていきたい
- 内容が専門的すぎる
- 発表をじっくりと聞きたい

5. おわりに

本事業で地域と研究者の交流を促進することができた。また多くの学生が発表することで、研究成果が地域に貢献できることを学生も理解することができた。今後も取組を続けていきたい。





大分県内産ワインとチーズを楽しむタベ

別府大学 食物栄養科学部 発酵食品学科 藤原 秀彦

目的

- ▶ ワインとチーズの発酵メカニズムについて理解してもらう。
- ▶ 大分県内産のワインとチーズの特色を理解してもらう。
- ▶ お土産や料理に利用してもらい、消費拡大をねらう。

事業概要

日時：平成30年11月13日（火） 18：00～20：00
 場所：J:COM ホルトホール大分 キッチンスタジオ
 参加者：自営業、公務員、会社員等39名
 講演者：
 古屋浩二（安心院葡萄酒工房 工房長）
 渡辺真理子（C.P.A認定チーズプロフェッショナル
 チーズオンザテーブルトキハ店 店長）
 陶山明子（別府大学 発酵食品学科 准教授）
 藤原秀彦（別府大学 発酵食品学科 准教授）

講座プログラム

- 18：00 開会（コーディネーター 塩屋幸樹）
- 18：05 チーズの発酵メカニズムについて（陶山明子）
- 18：15 ワインの発酵メカニズムについて（藤原秀彦）
- 18：25 大分県産チーズの紹介（渡辺真理子）
- 18：55 大分県産ワインの紹介（古屋浩二）
- 19：30 意見交流会
- 20：00 終了



〈告知用チラシ〉

講座の内容

〈チーズの発酵メカニズムについて〉



陶山氏による講演の様子

▶ チーズの製造方法について科学的に講演を行った。ナチュラルチーズとプロセスチーズの製造法の違いやチーズの熟成について写真を用いながら説明した。また、チーズ製造に欠かせない乳酸菌、青カビと白カビについても一般の方にも分かるように説明を行った。

〈ワインの発酵メカニズムについて〉



藤原氏による講演の様子

▶ ワインの発酵について科学的に講演を行った。ワインの歴史から作り方について写真などを多用し説明を行なった。また、様々なワインの熟成方法についても紹介した。さらに、ワイン製造における酵母のアルコール発酵について詳細な説明が行われた。

〈交流会の様子〉



〈大分県産チーズについて〉



渡辺氏による講演の様子

▶ 大分県内産のチーズを中心に講演が行われた。チーズの種類や美味しい食べ方、組み合わせについて1つずつ説明した。普段馴染みのない県内産チーズに関しては生産者の情報も含め丁寧に説明を行った。また、盛り付けも工夫されていた。

〈大分県産ワインについて〉



古屋氏による講演の様子

▶ 大分県内産ワインを中心に講演が行われた。ワインの種類、色、香り、ぶどうの品種について写真やサンプルを用いながら詳しく説明を行った。講演後は、実際にワインの香り成分についてそれぞれの香りを体験するイベントも行われた。

受講者の声

・チーズとワインの説明がとても分かりやすくよかった。・チーズ、ワインの作り方、成り立ちがとても勉強になりました。・普段知れない県産チーズを知れてよかったです。・保存方法など勉強になった。・チーズ、ワインのお土産の目安が分かった。・またこのような機会を提供して頂ければ幸いです。・第2回を希望します。・来年もお願いします。

まとめ

▶ 事前にチラシやSNSで告知した結果、定員40名に対し50名以上の応募があり、ワイン、チーズへの関心の高さが感じられた。ワインとチーズの発酵メカニズムの理解および大分県内産のワインとチーズについての情報を提供するという点については、アンケート結果より概ね達成できたといえる。消費拡大については、受講者の中にはサービス業や行政の方もいたため、今後大分県内産のワインとチーズの普及および新たなレシピ開発を期待したい。

〈おおいたプロモーションプログラム2018〉

「超」仕事力実践特講 第3講

アマゾンのカリスマバイヤーと語り合う、おおいたで働き、幸せを引き寄せ、成功する仕事力！ / 大分県立芸術文化短期大学 / 専任講師 安倍 尚紀

2019年1月29日（火）
於 九州電力株式会社大分支社 本館2階大ホール
「2018年度おおいた創生シンポジウム」



大分県立芸術文化短期大学
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE

平成30年度 地方創生大学等連携プロジェクト支援事業B （「おおいたプロモーション」プログラム2018）

「超」仕事力実践特講の成果と展望:

第3講: アマゾンのカリスマバイヤーと語り合う、おおいたで働き、幸せを引き寄せ、成功する仕事力

安倍尚紀*、北尾洋二†、成田誠‡

*大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科
†株式会社ザ・メディアジョン・リージョナル/内閣官房
‡株式会社日本政策金融公庫・福島支店

Contact: n-abe@kyudai.jp

- 概要 -

本報告は、平成30年度地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B（「おおいたプロモーション」プログラム2018）として採択いただいた「超」仕事力実践特講の事業成果について、今後の展望を含めて提示するものである。「仕事力実践特講」とは、大分県立芸術文化短期大学の地域活動（通称：サービスマーケティング）に従事し、著者らが中心となって2013年度から立ち上げた情報コミュニケーション学科の看板講義科目である（活動内容等について詳しくは筆者らの公開論文を参照）。今回、「大分で働き、いかに幸せを追求していくか」というテーマを設定した。

1 実施の前提 Present Situation of Oita Prefecture

「仕事力実践特講」は、必修講義ではないにもかかわらず毎年80名～100名（1年生の8～9割）が受講する、大分芸短大・情報コミュニケーション学科の看板科目である（著者の一人北尾洋二が担当）。

ここでいう「仕事力」とは、思いやり、公共心、倫理観といった「人間性や基本的な生活習慣」、あるいは読み書き、計算、ICTスキルといった「基礎学力」、また仕事に必要な「専門知識」を統合して活かすための、経産省が提唱したようないわゆる「社会人基礎力」(*)にとどまらない。目まぐるしく変化し混迷を深める現代社会を舞台としつつ、高校生活までの勉強法や枠組みとは全く別の考え方・習慣にもとづいて、職場や地域で活躍するための総合的な力を定義しておきたい。これまでも、講義中にツイッター発信を推奨する等、さまざまな角度から試みをしてきた。

今回は、プロジェクト支援事業Bとして、「同じ働くなら選択肢が多いところで」「都会の生活は楽しい」などと思いついて、無意識的に大都市圏を目指す就労者に対して、「大分で働き、いかに幸せを追求していくか」というテーマからプログラムを展開するに当たり、以下の目的を定めた。

目的 現代社会で「はたらくためのあり方」と「やり方」を理解し、将来に広がる多様な進路（就職・進学・編入学問わず）や仕事を主体的に選択する力を養う

「大分で働き、いかに幸せを追求していくか」とローカルに焦点を当てたテーマについて、グローバル市場の第一線で活躍する経営者及び産業人による実践型の講義を企画した。想定される受講対象は、大学生及び若手社会人だ。地域（大分）で活躍する上での、自己肯定感と自己有用感をもってもらえるように企図した。

※「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」

2 昨年までの到達点 Fruit of the project last year

昨年度まで実施した全3回の記録を掲載しておく。

第0講 11月1日（水）16:15～19:35、芸文短大人文棟102講義室にて「2017地元で活躍する先輩たちに直接聞ける『就活に失敗しない方法』」を開講。グループディスカッション「地元で活躍する先輩・パネラー経営者に直接聞く！」をキャッチフレーズとし、コンサルティング会社（新納ビジネスマスターズ）勤務の卒業生を司会役として53名が参加した（芸短生41名、学外12名）。講師は、中西理（麻酔科医）、佐藤みき（竹田市議会議員）、麻生隆一郎（有限会社麻生醤油醸造場 代表取締役）、安倍秀徳（有限会社エイコー印刷専務取締役）。大分県を文脈に、なんらかの選択をするときに参照すべき判断材料（離職率の高さ、県内就活への備え、アルバイト、自己分析、仕事の転機、事業承継、職場での人間関係、公務員、想定外の配属他）が議論のテーマとなった。

第1講 2017年11月11日（土）14:00～16:00、芸短人文棟102講義室にて開講。64名が参加した（芸短生36名、学外28名）。世界を見据えた視点で、大分県民同士の付き合いだけではない「気づきにくい「当たり前」のことが競争優位になるかもしれない等、指摘があった。後半40分は質問を中心に進行したが、アンケートによるフィードバックには、戦略的な視点から勇気付けられることによって、自分のキャリアを考え直すことができたという意見が多数あった。

第2講 2017年12月9日（土）14:00～16:00、芸短人文棟102講義室にて開講。45名が参加した（芸短生31名、学外14名）。経営者を中心とする多くの先人の事例を交えながらも、自分の夢に関するクランボルツシート（具体化／因果関係を追求していく）を記入するワークショップを交えながら進行したのが特徴的だった。第1講と連続受講した学生のアンケートによると、「前回と真逆の内容でシビアだった」という意見も見られた。多くのフィードバックから、自分のキャリアを見つめなおし、評価軸や転換点を見直す機会になったと思われる。

3 実施結果と考察 Result and Reflection of the project

3.1. 第3講の実施結果

2018年11月10日（土）16:00～18:00、芸短人文棟102講義室にて開講。78名が参加した（県内学生55名、社会人23名）。「日本発お部屋片づけネット番組、米国で社会現象に」(2019年1月18日朝日新聞朝刊)と話題になった著者のコンセプトを組み上げた土井英司氏（ビジネス書評家・エリエス・ブック・コンサルティング代表）、仕事力実践特講の北尾洋二氏（内閣官房・地域活性化伝道師・ザメディアジョン・リージョナル代表）を講師として、「アマゾンのカリスマバイヤーと語り合う、おおいたで働き、幸せを引き寄せ、成功する仕事力！」と題して実施。アンケートの自由回答には、「また来年も来ていただきたい」「毎年、継続してこの講座をお願いします」「今までの類似のセミナーで一番良かった」と等、16名から極めて強い開催への要望が含まれていた。

3.2. アンケートの分析 参加者のほぼ100%がとても満足という回答だったため、以下、自由回答を少し詳細に分析してみたい。設定した独自項目「セミナー開始前の悩みや課題」としては、学生については「進学・就職を迷っていた」「将来、どのような仕事につくか」を半数程度が持っていた（その他、「大学が楽しくない」他、私生活や恋愛について若干名）。フィードバックに分類できる「気づき」の感想として、「周囲の人たちを底上げしてwin-winの関係を増やしていく」「時間の使い方など既存の枠組みに囚われない人生観」「安定志向で限界を決めつけず、失敗すること」「仕事に対する考え方の転換がほぼ全ての回答に記入されていた。このことから、「現代社会で「はたらくためのあり方」と「やり方」を理解し、将来に広がる多様な進路や仕事を自分の手で選択する力を養う」という当初の目標は数値上、達成できたと考えられる。

3.3. まとめと考察 以前、中国・四国・九州地方の大学・短大生を514名を対象に就職の「地元志向」について実施した調査で明らかになったように、大分県内では仕事のやり甲斐よりもプライベート生活の充実を重視する学生が多い。上記3.2に示した結果は、仕事とプライベートと両方の充実は、ある意味で切り離すことができない重要な要素であることを示している。特に、ワークショップや直接的な質問を通じて、人生・仕事の評価軸や転換点を考え直す機会を提供できたと考えられる。

今回の成果の一部を論文文化している。筆者らによる2018年の実践をもとに執筆中の論文「地方都市における創業支援機関のあり方～山口県下関市 創業支援カフェ KARASTAでの実践を通して～」は、本文中に記しているように、昨年度・今年度と継続してきた「超」仕事力実践特講の視点から、地域の魅力化・活性化をめざす試論である。

Reference
安倍尚紀、北尾洋二、成田誠、2017、「地方創生」・「グローバル人材確保」を背景とした大学生・短大生の就活戦略と企業の採用活動～中国・四国・九州地方でのアンケート調査結果をもとに～、『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』、第54巻、pp.109-134。
安倍尚紀、北尾洋二、成田誠、2016、「地方都市の中小企業における新規卒業者採用活動のあり方に関する研究～中国・四国・九州地方の大学生へのアンケート調査結果から～」、『情報処理学会研究報告『情報システムと社会環境』、Vol.2016-15-135 No.7、1-8
安倍尚紀、成田誠、2015、「大分県尾道市における魚味増加加工業の進展とサービスマーケティング-経営コンサルティングに焦点を当てたNPO 自分戦略デザイン大学の実践-」、『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』、第52巻、pp.29-46。

小中学校教員向け マイコンとセンサを使ったプログラミング基礎講座

大分工業高等専門学校 技術部 永田 玲央

概要

2020年度から小学校でのプログラミング教育が必修化されます。それに伴って、中学校で行われているプログラミング教育にも影響があると考えられます。

本講座では、センサからの情報をマイコンで読み取り、その情報を利用してモーター等を制御するための回路製作およびプログラミングを体験します。本講座は、この体験を通して、ものづくりを楽しむとともに、小中学校教員がプログラミング教育用教材を製作するためのきっかけづくりとしたいと考えました。

事業内容

講座は、表1に示すように1日で終了できる内容としており、小中学校教員が受講するのに負担の少ないようにしています。内容は、マイコンボードArduino互換機(図1)と温湿度・気圧センサ、およびモーターを使用した回路基板(図2)を製作します。その後、プログラミングを通して、センサの値を読み取ってモーターを制御するまでを体験します。受講生は、本講座を受講することでマイコンを利用した計測・制御の基本的な仕組みを学ぶことができます。

なお、本講座では、冒頭でマイコンの基礎知識や、センサの原理等に関する簡単な説明を行いました。また、身近な例を示しながらマイコンを利用した計測・制御の基本的な仕組みについても説明しました。その後、回路製作・プログラミングを行うことで、座学→実践という流れができ講座に深みを持たせました。

表1 講座内容詳細

9月8日(土) 9:30~12:00	9月8日(土) 13:00~16:30
マイコンやセンサの簡単な説明(0.5h) マイコンを利用した計測・制御の仕組み(0.5h) 基板製作(パーツの確認、ハンダづけ)(1.5h)	プログラム開発環境の説明(0.5h) プログラム作成(2.5h) 動作確認(0.5h)



図1 Arduino互換機

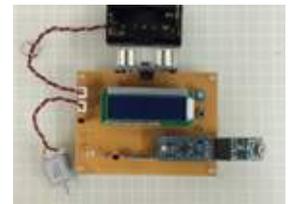


図2 製作する基板

結果

本講座は、以下に示す4つのステップで実施しました。各ステップにおける講座の状況を写真と簡単な説明で示します。



まとめ

本講座は、マイコンとセンサを使った基板を製作し、プログラムでこれらを制御するという内容でした。本講座では、ものづくりの楽しさを体験するだけでなく、小中学校教員が教材を製作するためのきっかけづくりをしたと考えました。

本講座の受講生は、半数が中学校の教員でした。講座終了後に実施したアンケートの結果から、本講座の満足度は100%でした。個別のコメントを見ても、本講座に大変満足してもらえたことがわかります。これ以外のコメントとして、教員の方から「授業に組み込めないかと考えて参加した」「教材づくりの意欲が向上した」といったものがあり、本講座が中学校教員の教材製作のきっかけづくりになったといえます。また、「中学校教員向けの講座を開催してほしい」という意見もあり、中学校教員向け講座にある程度のニーズがあることもわかりました。

本年度は、昨年度から大幅に内容と対象を見直して、完全な新規講座として実施しました。その結果、昨年度より受講生数は増えました。また、先述のとおり、受講生の半数が本講座で主に対象としていた小中学校教員の方だったということから、ニーズに合った講座だったのではないかと考えます。今後は、開催時期や内容、受講料等をさらに見直して、本講座をどのように運営していくかを検討していく必要があります。

〈おおいたプロモーションプログラム2018〉

「大分を彩るスポット再発見」五感を刺激する～うわさのタイムトリップ～ / 別府溝部学園短期大学 / 食物栄養学科 学科長 牧 昌生

大分を彩るスポット再発見～うわさのタイムトリップ～

平成30年度地方創生大学等連携プロジェクト支援事業B(大分県委託事業)



地域は？

目的:「大分を彩る」宝を「お宝ジオスポット」と題して 日本の原風景の魅力をSNS等を使って大分から世界へ発信



実施機関: 別府溝部学園短期大学 食物栄養学科 温泉コンシェルジュコース
 連携自治体: 豊後大野市商工観光課 おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会
 共同企画企業等: J.COMホルトホール大分、一般社団法人大分学研究会

本講座では、国内3か所しかない“ジオパーク”そして“ユネスコエコパーク”共通の認定地域で、おおいた豊後大野ジオパークの特徴と大分の国宝級の磨崖仏や石橋など歴史と石造文化の魅力を講座と現地研修で学び、発信します。受講料無料(一部自己負担有り)
 対象者: 観光産業、まちのガイド、行政等の仕事に従事する方、地域資源等に関心のある方など

プロジェクトプログラム (講座と現地研修)

【講座】9月28日(金) 参加者: 31名 18:00~20:00
 会場: J.COMホルトホール大分2階サテライトキャンパス
 講義① 「ジオパークによる豊後大野市の持続可能な地域づくり」
 講義② 「全国最多の石橋郡、石仏群[磨崖仏群]など地域資源の概要」



講義①
 講師
 日本文理大学工学部
 教授 杉浦 嘉雄(すぎうら・よしお)氏

大分市在住 現在、国東半島宇佐地域世界農業遺産、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク、おおいた豊後大野ジオパークなどの仕組みを活かして、九州における生物多様性を重視した“持続可能な地域づくり”の先進事例をめざしている。



講義②
 講師
 大分県教育庁文化課
 副主幹 山路 康弘(やまじ・やすひろ)氏

大分市在住 専門は磨崖仏を中心とした石造文化財の保存修復。日本や韓国などで研究発表をおこない、2015年にはJICAの依頼を受け、エジプト国立博物館の研究員や修復家に文化財の保存理念や修復方法等の講義をおこなう。

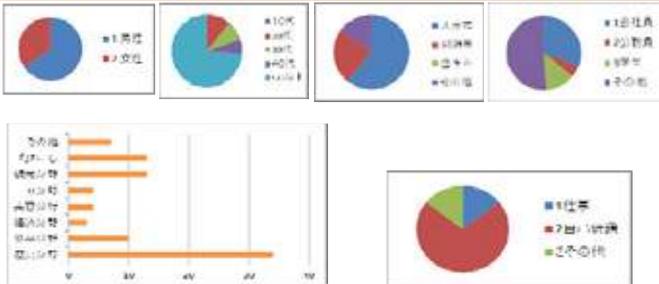


【現地研修】10月8日(月:祝) 参加者: 37名
 ○現地研修では、講師の杉浦嘉雄教授と山路康弘副主幹が説明
 研修場所(コース)
 8:40 別府溝部学園短期大学 出発
 9:00 北浜バス停(西鉄グランドホテル前)
 10:00 大分駅発⇒大迫磨崖仏⇒菅尾磨崖仏⇒昼食 道の駅みえ⇒原尻の滝⇒辻河原の石風呂⇒宮迫東石仏⇒宮迫西石仏⇒出会橋・轟橋⇒沈墜の滝⇒道の駅清川
 18:00 大分駅着 別府溝部学園短期大学着



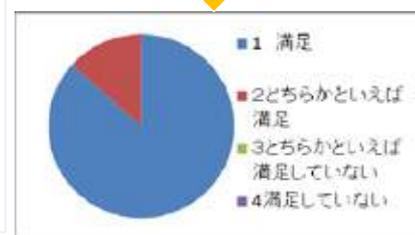
- ① ②急な階段を上りつめると現れる、端正なお顔立ちの菅尾磨崖仏。9万年前に大噴火した阿蘇火山より生まれた阿蘇溶結凝灰岩壁に彫刻されている、立体的な彫り口が美しい磨崖仏。
- ③ 阿蘇火山の火砕流が冷え固まってできた岩壁のひび割れ“柱状節理(ちゅうじょうせつり)”が印象的な原尻の滝。お天気にも恵まれ、みんなで記念撮影!
- ④ アーチの長さが日本1位と2位の轟橋と出会い橋。大きなアーチを下から眺めることができる隠れスポットから見学。
- ⑤ 阿弥陀如来、釈迦如来、薬師如来から成る、宮迫西石仏。
- ⑥ 雪舟の水墨画にも描かれた、沈墜の滝。

参加者の「おおいたプロモーション」プログラム2018 アンケート(抜粋)



【参加者の感想等抜粋】
 ・現地を見るのが楽しみ
 ・素晴らしい講義
 ・情熱溢れる先生の熱意が伝わってくるお話しは楽しい
 ・最高の講師陣、企画に感謝!
 ・自分の知らない豊後大野の歴史を知ることができて、とても有意義な時間だった。
 ・他県から来た。地元の方は宝の蔵が当たり前
 ・温故知新が面白い。
 ・大分の魅力を発掘し、PRしたい

満足度100%



展望

本事業において、大分の貴重な歴史を理解し、地域の資源を体感することでその価値を観光資源として学び取ったように思われます。参加者は、豊後大野市の知らなかった魅力を写真と学んで納得したこと、感じたことを思い思いにSNS等を利用して情報発信していました。今回の事業で、大分の彩を新たに創出し、大分から日本の原風景を世界へ伝えることが微力ながらできたこと、また、地域活性化の一助となることを期待します。また、本講座でご教授いただいた講師や、ともに受講した仲間とのネットワークを構築することで、自身の今後の活動につなげることが理想であり、大きな成果へ発展すると考えます。

おおいたプロモーション」推進プログラム2018 「おおいたの大地でつくる秋やさい」

○講座の目的

本講座は、野菜栽培に興味のある若手を対象として大分の大地を舞台にした野菜栽培体験を通じて、「育てる」「収穫する」喜びを体感し、大分への愛着と大分に暮らす喜び・魅力を再発見することを目的としました。

○講座の実施概要

回	月日(曜日)	時間	内容	場所
第1回	9/1(土)	9:00 ～ 12:10	講義 土作りと秋やさいの栽培方法	大分短期大学 校舎 (大分市千代町)
第2回	9/15(土)	9:00 ～ 12:10	実習 種まきと苗の定植	大分短期大学 滝尾実験実習場 (大分市津守長山)
第3回	10/20(土)	9:00 ～ 12:10	実習 野菜の管理 (追肥、除草、病害虫防除など)	
第4回	11/17(土)	9:00 ～ 12:10	実習 野菜の管理 (追肥、除草、病害虫防除など)	
第5回	12/15(土)	9:00 ～ 12:10	実習 収穫(意見交換会、アンケート)	

* 第2回、第3回は雨天のため日程を変更しました。

* 参加者数は7名でした。

【本講座の満足度に関するアンケート調査結果】

- ・ 満足・・・・・・・・・・・・・・・・・・7名(100%)
- ・ どちらかといえば満足・・・・・・・・・・0名
- ・ どちらかといえば満足していない・・0名
- ・ 満足していない・・・・・・・・・・0名

○ 第1回(講義) 土づくりのポイントと秋まき野菜の特徴・栽培方法について説明しました。



○ 第2回(実習) 土づくりの後、野菜苗(ハクサイ、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、九条ネギ)の定植、ジャガイモの種イモ、の植え付けを行いました。



○ 第3回(実習) 第2回に引き続き、土づくりとマルチングの方法についての講習を行いました。ニンニク球根の植え付け、シュンギク、ホウレンソウ、カブ、ダイコンの種まきを行いました。



○ 第4回(実習) 紫ダイコン、カブの一部を収穫しました。シュンギクは間引き作業を行いました。各々の野菜に追肥をしました。野菜の成長に受講生は驚いていました。



○ 第5回(実習) すべての野菜を収穫しました。収穫した野菜は豚汁にして試食しました。受講生の満足度は高く、今後、夏野菜の講座も開催してほしいという意見が多く上がりました。



〈おおいたプロモーションプログラム2018〉

～底力と世界を魅了する価値を持つ日本が、勢いを取り戻すために～ 若いみなさんが世界をみる意味を語ろう

立命館アジア太平洋大学 / 事業課 大嶋 名生

2018 年度サテライトキャンパスおおいた支援事業

セミナーテーマ：若者よ、世界に飛び立て（立命館アジア太平洋大学主催分）

趣旨：いま世界は、グローバル化の加速に伴う経済格差の拡大や地域紛争、気候変動など難問が山積する中、問題解決に指導力を発揮するリーダーのいない状況に向かいつつあります。こうした中、少子高齢化を抱えた日本が相応の貢献を果たすためには、グローバルに活躍できる若者の増大が不可欠であります。

世界貿易機関（WTO）、世界保健機関（WHO）、国連本部など4つの国際機関で働いた赤阪氏自らの経験をもとに、グローバルに活躍することの魅力語り、若者に世界に飛び立つことを呼びかけます

場所：大分県庁舎 本館 正庁ホール

日時：2018年12月2日（日）

講師：赤阪 清隆（公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長）

略歴：1971年に外務省に入省。入省後は国際機関での勤務が長く、1988年GATT（WTOの前身）事務局、1993年世界保健機関（WHO）事務局、2000年に国連日本政府代表部大使を務める。2003年に経済協力開発機構（OECD）事務次長に就任。2007年4月から2012年3月までは国連広報担当事務次長（広報局長）として、世界中の国連広報センターや既存のメディア、ソーシャルメディアなどを活用した国連の広報強化に尽力した。2012年8月より現職。



アンケート結果

受講者数	37					
アンケート回答者数	36					
回答率	97.30%					
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代
チェック件数	19	2	5	6	3	1
属性	高校生	専門学生	大学生	社会人	教育関係者	その他
チェック件数	19	0	1	9	6	0
学校名	大分県立高田高校		大分鶴崎高校		大分県立雄城台高校	
	上野丘高校		大分県立杵築高等学校		大分豊府高校	
APU						
お住まい	別府市内	大分市内	その他			
チェック件数	3	21	12			
①講義のテーマはいかがですか						
1.大変興味深い	26		<ul style="list-style-type: none"> 国際協力で興味があったから これからの世界においてとても大切なことだと思うから 将来国際機関で働きたいから 今、若者に求められる国際性を感じられた APUに進学したいと考えているから 私も留学を考えているため、参考になったから 世界で活躍するには、どうしたら良いか分かった 国際やグローバルに興味があり、そういう仕事に就きたいから 将来、国際機関で働きたいと思っているから 今、自分が一番しっかり捉えるべきテーマだったから 自分が呼びかけられているようなテーマだった 			
2.興味深い	9		<ul style="list-style-type: none"> 今、国内で問題とされている事の一つであることが興味深かった グローバル人材を考えることで外国人についてのことがよく分かった 			
3.普通(どちらでもない)	1					
4.興味をもてない	0					
②全般的な満足度はいかがですか。						
1.とても満足	24		<ul style="list-style-type: none"> 自分から質問に手を挙げてコミュニケーションを回ったこと 質疑応答にもしっかり答えてもらえて嬉しかった。もちろん貴重な話が聞けた 今の若者の状況等を聞く事ができ良かった 知らない事がたくさんあった とても貴重な話が聞けた 貴重なお話を聞く事が出来て、とても満足です 英語の重要性や必要な人材の条件を知れて頑張ろうと思えたから 英語の重要性やグローバル化の中で私たちが何をすべきかについて深く理解することが出来た 自分の問題を特定できた 貴重な話を聞いて自分の知識を広げられたから とてもためになる話を聞く事ができた 			
2.満足	9		<ul style="list-style-type: none"> 専門的な人の貴重な話を聞いて知識が広まったから たくさん国際的について聞けたから 			
3.普通(どちらでもない)	2					

大分で採れる天然染料をめぐる文化と科学 ～学習教材・観光資源としての「おおいたの色」～

大分大学 教育学部 都甲 由紀子
被服学研究室 <https://togolabo.jp>

プロジェクトの目的

- 大分県内では古来高貴な色である黄色と紫の天然染料になる動植物が育つ。
- 中津の干潟で採れる巻貝アカニシからは西洋で権力者しか身に付けることのできなかった紫色、貝紫が染められる。
- 天皇陛下しか身に付けることのできない黄櫨染は櫨と蘇芳で染めるが、この櫨の木はいたるところに生えており、黄櫨染の衣装は宇佐神宮の宝物館に収蔵されている。来々、現在の皇太子が即位されるときに着用されることが見込まれ、タイムリーな話題でもある。
- 補色の関係にある黄色と紫を染める染料には「おおいたの色」として文化的にも科学的にも興味深い内容が豊富にある。
→ この価値ある情報を大分の人々と共有することを目的とした講座開催

体制

連携先：NPO法人 水辺に遊ぶ会、手染メ屋
活動地域：中津市、大分市
対象学生の学年および人数：
大分大学教育学部 3年生 2名
4年生 4名
計 6名

概要

大学での染色にかかわる学び
↓
中津における干潟保護活動
天然染料による染色活動
↑
貝紫や櫨染を通して
地域資源の気づきに
つながる講座開催

講座：大分で採れる天然染料をめぐる文化と科学
～学習教材・観光資源としての「おおいたの色」～
プロジェクトA「紫を巡る文化と科学」と連携

チラシ・ポスター制作

奈須星さん



足利由紀子氏「アカニシの棲む中津干潟」

【日時】2018年11月22日 18:30-19:00
【講師】足利由紀子氏 (NPO法人水辺に遊ぶ会代表)
「アカニシの棲む中津干潟」



お話の概要

- NPO法人水辺に遊ぶ会はカブトガニの棲む中津干潟を守る活動をしている。
- 中津干潟には多種多様な生き物が育っており、アッキガイ科のアカニシも育つ。アカニシは食用に販売されている。
- 昨年から大分大学被服学研究室とともに染色活動をしている。
- 自然科学の不思議さやおもしろさ、豊かな海の恵みに感謝する気持ちを子どもたちと共有するためにアカニシ染めを広めたい。
- 中津干潟の自然環境や保全に対する市民意識の醸成、持続可能な漁業やツーリズムの素材として、アカニシ染には可能性がある。



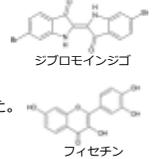
青木正明氏「櫨（はぜ）と貝紫（かいむらさき）の話」

【実施日時】2018年11月22日 19:00-20:30
【講師】青木正明氏 (手染メ屋代表)
「櫨（はぜ）と貝紫（かいむらさき）の話
～大分に関わる2つの天然染料について～」



お話の概要

- 160年前までは世界中すべて天然染料であり、世界初の合成染料は紫色であったからこそ発明された。
- 大分で育つ紫色の天然染料には、紫根と貝紫があり、貝の内蔵で染色する方法は2通りある。
- チリンドキシル硫酸塩（黄色）が酵素の働きでチリンドキシル（黄色）になり、二つ繋がってチリバージン（緑）になり、紫外線が当たるとジプロモインジゴ（紫）になる。
- ジプロモインジゴは還元するとロイコ体になり、水に溶ける。
- 地中海では紀元前、中南米でもマヤ文明、アンデス文明の時代から貝紫を染めていた。
- 日本では吉野ヶ里遺跡から貝紫で染めた絹裂が出土している。
- 櫨は弓・ろうそくの材料として使われていたが、天皇陛下の衣装を染める染料としても使われた。
- 宇佐神宮には孝明天皇の黄櫨染御袍がある。
- 櫨の黄色色素はフィセチンと言われる。蛍光を呈する天然色素である。



貝紫染実演

- 足利氏持参の中津のアカニシ5個、貝の口の近くに穴を開け、竹串を入れて貝柱を外した。
- 貝の身を出し、パープル腺をカッターで切って取り出した。
- パープル腺を潰して指で綿に字を書くとだんだん紫色になった。



受講生の感想

- 大分でこんな素晴らしい染料があることを学べた
- 大分についてさらに知ることができた。
- 大分の自然から生活につながるもののお話しになった事がおもしろかったです。
- 大分のアカニシについて知ることができ、今度ぜひ食べてみたいと思いました。科学のお話ともてわかりやすく、楽しかったです！またぜひ参加したいです！
- アカニシの生態や中津の干潟について紫色の起源についてなど詳しく知ることができた。
- アカニシからさいかせんとする実演がすばらしい。足利さんのお話もきつけられました。
- 難しい説明をとてわかりやすく伝えてくれておもしろかったです。もっとお話しききたかったです。機会があったら貝紫染りたいと思います。
- いろんな面でめちゃくちゃためになった！！楽しかった！！
- 染色のこと、楽しく学びました。続きをまたお願い致します。
- 天然染料の奥深さを知ることができた。
- 歴史や科学など内容が深かった。
- 日頃聞けない話であった。
- 珍しいお話で楽しかった。

県内外から
43名参加



成果と課題

- 学生始め受講生の地域や染色に対する理解が深まった。さらに、地域の染料をテーマとした染色研究に対する意欲や関心の高まりもみられた。地域への愛着を深める機会にもなった。
- 一般受講生にとっても学びの機会になったことがうかがえた。
- 受講生としての学生参加者は2名、10代20代が10名にとどまり、学生や若年層が主体的に参加できる講座にすることは課題が残った。

謝辞

講師をお引き受けくださいました足利由紀子さま、青木正明さま
アカニシ確保のためご尽力くださいました漁師のみなさま
講座の広報・事務・運営にご協力くださいましたみなさま
講座に参加してくださいましたみなさま
関係各位に謝意を表します。

「2018年度おおいた創生シン

1月29日(火)に、「未来の大分を担う若者にバト」
「2018年度 おおいた創生シン



日本文理大学
3年生

この事業に参加して、大分の歴史や文化等を知ることが出来ました。また、この体験を通じて、私が生まれ育ったこの大分のさらなる活性化に貢献できるような人になりたいと思いました。そして、私は、大分で働きたいと考えており、そのためには、私たち若者がより一層大分の動きに注視し、地域との交流活動の中で、知識と経験を積みたいと思います。

学生が地域や企業と協働して行ってきた活動及び成果の発表



大分県立看護科学大学



大分大学



大分県立芸術文化短期大学



日本文理大学



大分工業高等専門学校



大分工業高等専門学校



別府溝部学園短期大学



別府大学



大分短期大学



立命館アジア太平洋大学

「ポジウム」にて成果報告を実施！

「未来を渡すために出来ることは！」をテーマに、「ポジウム」を開催しました。

司会進行
別府大学

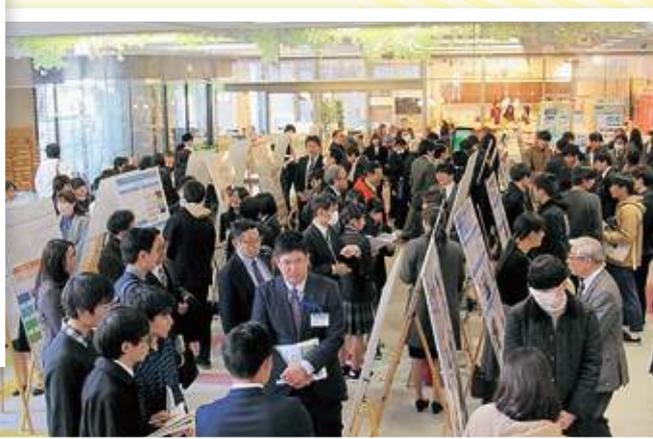


プロジェクトでは、佐賀関の自然を知ることができ、都会と違ってすぐそこに素晴らしい自然があることを実感しました。また、人それぞれの意見を踏まえて多面的に物事を捉えなければならないことを学んだことは大きな収穫でした。

大分短期大学
2年生



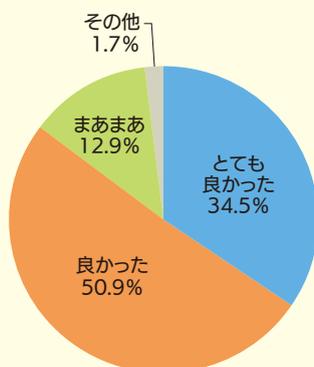
会場は250名の
参加者で一杯!!



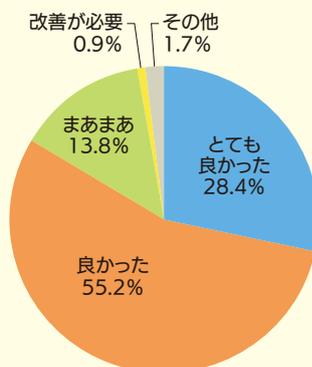
ポスターセッション

成果報告会 アンケート 集計結果

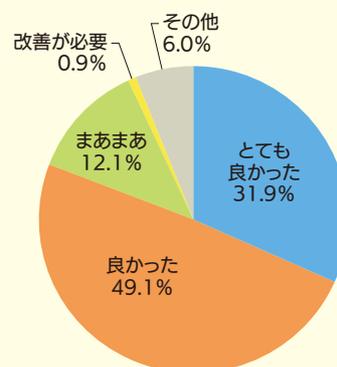
Q.「学生からのメッセージ」の満足度を教えてください。



Q.「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業（県委託事業）成果報告会」の満足度を教えてください。



Q.「ポスターセッション」の満足度を教えてください。

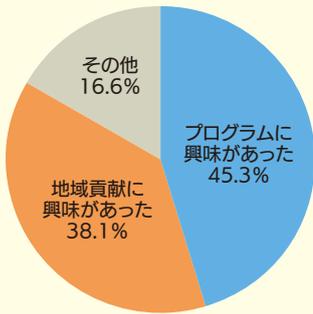


Q.「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業（県委託事業）成果報告会」の感想

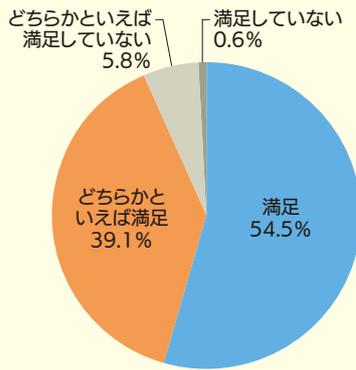
- ・学生の思い、考えが伝わり、良かったと思います。
- ・学生に大分の様々な魅力を知ってもらい、大分を活性化させていければいい。
- ・より地域のニーズを学生に知ってもらい取組として、地域のニーズにマッチすることに重点を置いて頂きたい。
- ・全体的に地域づくりとしての活動が多かったので、企業側としては企業への就職意識の醸成もあるといいなと率直に思いました。
- ・各大学による素晴らしいアイデア合戦、今後の動向が気になる研究もあり、目からウロコの2時間でした。

学生による地域ブラッシュアッププログラム アンケート 集計結果

Q.どのような目的で参加されましたか？



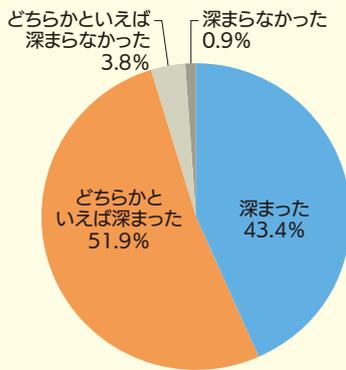
Q.事業に参加しての満足度を教えてください。



Q.本事業に参加しての感想・意見・要望等

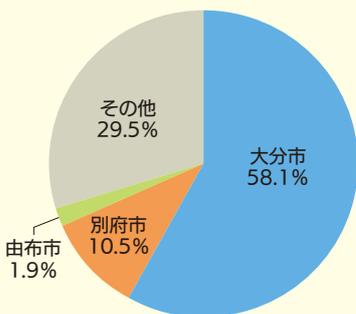
- (出前健康・体力チェック！)
- 幅広い年代の人と交流できたのがとても良かった。
- (中津市中心部における地域の魅力発掘と課題解決プロジェクト)
- 地域貢献、活性化方法の視野がとても広がった。
- (地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト)
- 地域貢献だけでなく、地域の現状や課題を発見できたので今後に生かしていきたいです。
- (地域のお宝発掘応援隊)
- 自分の知らなかった大分のことを体験することができ、また地域の人とのコミュニケーションをとることができました。
- (大分県下の全市町村版5374 (ゴミ無し) アプリ用オープンデータの整備)
- ゴミの分別が地域によって大きく異なることを知った。5374が役立つというと思います。
- (「学生及び地域住民参加型ワークショップによる地域活性化への提案」)
- 学生達にとってワークショップの手法は、地域課題の解決のスキルとして活かせる良い経験となった。
- (佐賀関×APU みらい共創プロジェクト)
- 予想よりも大変だったが、その分学べることも多かった。様々な立場で物事を考える力がついた。
- (紫を巡る文化と科学 ～紫根と貝紫～)
- 竹田の近くに住んでいたのに、紫草のことは知りませんでした。知れてよかったです。

Q.大分への理解がどの程度深まりましたか？

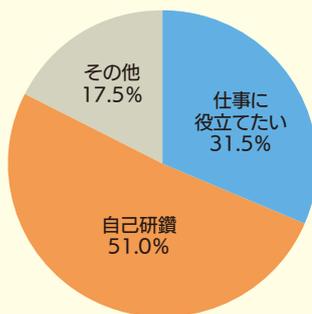


おおいたプロモーションプログラム アンケート 集計結果

Q.どちらからいらっしゃいましたか？



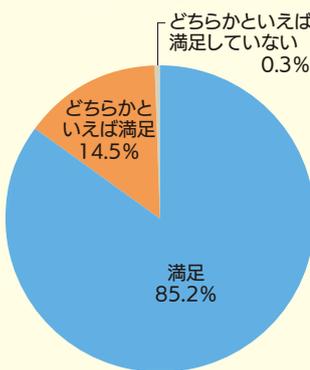
Q.どのような目的で参加されましたか？



Q.本事業に参加しての感想・意見・要望等

- (地域医療を活性化する看護の魅力—診療看護師 (NP) の活躍—)
- 高校生のためにわかりやすく講義していただきありがとうございました。本で読んだ想像の看護師とはとても大きく違って驚きました。看護師には多くの道がある事や、私が興味を持つ訪問看護、在宅看護についてもより知る事が出来てよかったです。またこのような機会があれば来たいと思いました。
- (最新の研究から見てきた地域の宝物『中津干潟』の現在と将来 ～地域資源としての干潟の保全・活用について考える～)
- 環境保全と水産業の連携について・今後もぜひ続けていただきたいです。若い人の参加もあり人材育成の上でもとても有意義な会だと思います。
- (「超」仕事力実践特講 第3講 アマゾンのカリスマパイヤーと語り合う、おおいたで働き、幸せを引き寄せ、成功する仕事力！)
- 普段の講義で聞けない内容でよかった。挑戦したい気持ちになった
 - 毎年、継続してこの講座をお願いします。今までの類似のセミナーで一番良かった
- (小中学校教員向け マイコンとセンサを使ったプログラミング基礎講座)
- 今後も中学校教員向けの講座を開催していただくと嬉しいです。
- (「大分を彩るスポット再発見」五感を刺激する～うわさのタイムトリップ～)
- まだ行ったことのない知らない所も多いので、いろいろと企画していただきたいです。
- (おおいたの大地でつくる秋やさい)
- 毎年研修会を開いてほしい。有料でもいい。一年を通しての講座があればいい。
- (～底力と世界を魅了する価値を持つ日本が、勢いを取り戻すために～ 若いみなさんが世界をみる意味を語ろう)
- 豊富なデータ、経験を基にグローバル人材の育成について貴重な示唆を頂き、有益な会でした。こういった話を若い世代に提示することの大切さを改めて考えさせられました。

Q.事業に参加しての満足度を教えてください。



地方創生大学等連携プロジェクト支援事業採択事業一覧 (2016年度・2017年度)

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2016〉

No.	申請大学等	事業名	申請者	実施時期
1	日本文理大学	地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト	准教授 今西 衛	7月～1月
2		おおいた地域創生リーダー養成講座 ～地方創生時代に活躍できる社会人を目指そう～	教授 吉村 充功	7月～12月
3	大分県立芸術文化短期大学	住民参加による中心市街地の賑わいづくり ～まちなか巨大絵画展示大作戦	准教授 竹内 裕二	6月～12月
4	大分工業高等専門学校	学生による「紛争に強いまちとひとを創る」プロジェクト	講師 久保山 力也	7月～9月
5	別府溝部学園短期大学	「野生鳥獣肉（ジビエ）を活用した地域料理の開発」	准教授 直井 美津子	6月～12月
6	大分大学	「学生がつなぐ地域と大学－おおいた防災・減災ボランティアプロジェクト2016－」	准教授 小山 拓志	12月～1月21日
7		自治体・高校・大学連携による公共交通の利用促進プロジェクトの実施	准教授 大井 尚司	4月～1月
8		大分観光バーチャル体験プロジェクト	教授 古家 賢一	6月～12月

〈おおいたプロモーションプログラム2016〉

No.	申請大学等	事業名	申請者	実施時期
1	日本文理大学 大分県立看護科学大学 大分県立芸術文化短期大学	『生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ』 (3大学3講座)	特任准教授 市田 秀樹 (日本文理大学)	9月～2月
2	大分県立看護科学大学	「看護によるものづくりを考える」	教務学生グループ 浜松 弘一	2月
3	大分県立芸術文化短期大学	You Tuber（ユーチューバー）養成初級講座 －おおいたの魅力発信！－	准教授 狩谷 新	8月～9月
4	大分工業高等専門学校	大人のためのものづくり講座	技術専門職員 永田 玲央	8月
5	別府溝部学園短期大学	大分の恵み再発見	教授 牧 昌生	7月～8月
6	大分大学	おおいた森のかおりとアロマセラピー ～精油（アロマ）の魅力と体験～	教授 氏家 誠司	12月
7		大分の地域を元気にしている担い手訪問バスツアー	教授 岡田 正彦	11月

〈学生による地域ブラッシュアッププログラム2017〉

No.	申請大学等	事業名	申請者	実施時期
1	日本文理大学	おおいた地域創生リーダー養成講座2017 ～地域の魅力発掘と課題解決ができる社会人を目指そう～	教授 吉村 充功	6月～12月
2		地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト	准教授 今西 衛	6月～12月
3		地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト	教授 小島 康史	6月～1月
4	大分県立芸術文化短期大学	まちな行き、友人・知人に教えたい誘導展示実験	准教授 竹内 裕二	6月～12月
5		VRで遊ぶまちなかマイグレート プロジェクト	准教授 於保 政昭	8月～12月
6		大分県地酒焼酎文化発信プロジェクト	講師 西口 顕一	7月～12月
7	大分工業高等専門学校	紛争を「遊ぶ」 - 紛争すごろくの開発とその実践 -	講師 久保山 力也	6月～12月
8	別府溝部学園短期大学	野生鳥獣肉（ジビエ）を活用した地域料理の開発および販売	准教授 直井 美津子	6月～12月
9	別府大学	玖珠町大麦プロジェクト ～大麦加工商品の開発による地域作り～	教授 仙波 和代	6月～12月
10	大分大学	竹田の色 ～紫を巡って～	准教授 都甲 由紀子	11月
11		宇佐市余谷資源発掘プロジェクト	教授 宮下 清	7月～11月
12		観光と交通を考慮した地域振興プランの提案 ～国東半島「六郷満山」百周年を見据えた国東半島内活性化に向けて～	准教授 大井 尚司	5月～11月
13		大分県観光地や中心部商店街における多言語表記調査及び多言語による表記の実施について ～別府市地獄めぐり温泉・その周辺と大分市中心部商店街を主として～	准教授 包 聯群	6月～12月
14		大分市判田校区における健康づくり応援プロジェクト	助手 椋島 千穂	6月～10月
15		地域の環境活動に取り組むNPOと連携したコミュニティ・リーダー育成プログラムの開発	教授 財津 庸子	6月～12月
16		大分観光バーチャル体験プロジェクト2017	教授 古家 賢一	6月～12月

■お問い合わせは

大学等による「おおいた創生」推進協議会

国立大学法人 大分大学 研究・社会連携部 研究・社会連携課
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 産学官連携推進機構2階
TEL 097-554-7913・7980 FAX 097-554-6177
<http://www.bundaicoc.org/> E-mail : cocsuishin@oita-u-ac.jp